琉球の方言

25

２０００年度
法政大学沖縄文化研究所

『琉球の方言』25号

目　　次

徳之島浅間方言の活用形アクセント資料 …… 上　野　善　道（ 1）

琉歌における条件形 …… 西　岡　　敏（ 63）

『中山伝信録』「琉球語」・「字母」の対音解読…… 丁　　鋒（101）

竹富方言の基礎語彙　—分野　5，衣— …… 加治工　真　市（139）

宮古西原方言の語彙（Ⅸ）…… 名嘉真　三　成
中　本　　謙（157）

琉球の方言25号

2001年3月31日発行

発行者　法政大学沖縄文化研究所
所長　安江孝司
〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
TEL 03-3264-9393

印刷所　有限会社立花印刷
〒140-0014 東京都品川区大井3-27-10

『中山伝信録』「琉球語」・「字母」の対音解読

丁　　鋒

『中山伝信録』六巻は清代康熙五十八年（1719）琉球国尚敬王を册封するため來琉した册封副使の徐葆光が康熙五十九年（1720）完成して翌年出版した册封使録である。徐氏は蘇州府長洲（今江蘇省蘇州市呉県）の出身、字は亮直。康熙四十四年詩賦で抜擢され北京に赴任、五十七年に册封琉球副使に任命された。在京二十数年間官位が上がらず、乾隆三年（1738）に病気の理由で辞任して帰郷した。

『中山伝信録』第六巻の巻末に漢字で音註した「琉球語」と「字母」が収めている。琉球寄語六百六條と仮名四十七個の対音は十八世紀初頭の琉球音韻の研究に貴重な音声資料である。

『中山伝信録』「琉球語」の前の識語「萬暦中册使夏子陽給諫使録刻有琉語。本朝張学礼册使亦略載雑記中。今就其少加訂正。対音参差，軽重清濁之間，終不能無訛也。」によると、寄語の編集中、明代夏子陽の『使琉球録』と清代張学礼の『使琉球記』や『中山紀略』に参考したことが分る。張氏の本に散在した寄語二十数條しかない。夏氏の本における「夷語」は前代册使蕭崇業『使琉球録』の同じ部分からそのまま写したものである。筆者の調べによると、『中山伝信録』の「琉球語」の606條目の中に蕭録と全く同じ條目は137條、対音字をかえた條目は百七條、新しい條目は約三百條となっている。改字した條目は確認されたことに意味して調査を経た新しい條目と同じように見て良い。その部分は寄語全体の四分の三に占める。蕭録と全く同様な條目は確認して納得し、改字しなかった可能性もあるし、全然確認できなく、あるいは確認しなかった可能性もある。いまの研究で言うと、どっちの可能性も否定できない。

『中山伝信録』の寄語対音の解読は対音字が表している語音が官話音ではなく、方言音であることで、十数種類の寄語資料の中で一番難しい。今度の解読は2000年五月下旬、台湾の淡江大学で開かれた「第九届社會與文化國際学術研討會－漢語文化學」學會で発表した小論「『中山伝信録』琉漢対音中反映的呉方音和官話音」の研究素材とした解読ノートに基き、書きなおしたものである。上述の論文は対音の中、破裂音・破擦音の濁音声母の存在、匣母（[ɦ]）・疑母（[ŋ]・娘母（[ɳ]）の存在、鼻音音節［m]、[n]、[ŋ]の存在、入声韻尾の存在、中古荘組声母が精組声母に発音、果・假・效三攝の母音がそれぞれ[u]、[o]、[ɔ]に発音、蟹攝一二等、梗攝、假攝三等、果攝一等、遇攝など攝韻の文（読書音）白（口語音）異読の存在など鮮明な呉語特徴を持つため『中山伝信録』の対音字に反映した漢字音は殆ど呉音（蘇州音）だと結論した。この結論は今度の解読文作成にも一

層活かされた。

解読文の凡例は以下のようになっている。

1．検索しやすいため寄語とその門類は通し番号を入れ、順序を表す。ほかの部分は原文どおり表示する。

2．原文（見出し語と対音字）の後に解読した中国語の発音（呉音が殆ど）、琉球音の順で並べる。間に←→号で対応を表す。[　] 内に表記された音は國際音声記号。ただ日本語は送気不送気音の対立がないから送気不送気の表記はしない。

3．呉音（蘇州音）は主に趙元任（1928）『現代呉語之研究』（北京清華学校研究院）。葉祥苓（1988）『蘇州方言志』（江蘇教育出版社）、古屋昭弘（1982）「『度曲須知』に見る明末の呉方言」（東京都立大学人文學報156）などを参考にした。琉球音は主に『沖縄語辞典』（国立国語研究所　1975年）、「クリフォード琉球語」（「琉球語彙」と略称、勉誠社文庫71亀井孝解説 1979）、「十八世紀初期の沖縄方言の音韻」（高橋俊三　沖縄国際大学文学部紀要第九巻第一二合併号　1981.1）など論著を参照した。ここで謝意を表します。

4．琉球音の解読に漢字語を加え、振り仮名も入れる。ことばの原型としての仮名が確定できない場合、振り仮名を入れない。

5．根拠としての引文の後につく（　）内は音記の説明である。＝（同じ）、←（～から変化してきた）二種類ある。

6．蕭崇業『使琉球録』と同じ形を持っている項目は逐一説明する。ただ蕭録（1579）も前代の資料（『琉球館譯語』十五世紀、陳侃『使琉球録』1535）からそのまま写したものがあるからそれらの２項目は音韻の時代性を確認できるため、出現した最初の資料を引用する。以上の項目は編集者徐氏の確認を経たとし、一応全部呉音で解読する。合わない個所は随所説明を加える。

(一) 琉球語

一　天文

1　天　町 [tʻiŋ] ←→ [tiN（天）]

沖縄語で「天」は「tiN」と発音する。

2　日　飛 [fui] ←→ [ɸi（日）]

3　月　子急 [tsɿkiʔ] ←→ [tsɯki（月）]

4　星　夫矢 [fuʃi] ←→ [ɸuʃi（星）]

5　風　喀買子 [kʻatsɿ] ←→ [kadzɯ（風）]

「買」は衍字だと考えられる。

6　雨　阿梅 [amui] ←→ [ʔami（雨）]

7　雷　喀呾渺一 [kʻanmiɔiʔ] ←→ [kaɴnai（神鳴）]

沖縄語辞典に「雷 hjaagaNnai」とある。「渺」は「那」の誤字だと考えられる。

8　雲　枯木［k'umu?］←→［kumu（雲）］

9　雪　又急［ɦiouki?］←→［iuki（雪）］

10　電　賀的［ɦuti?］←→［ɸudi:（稲妻）］

沖縄語辞典に「稲妻　hudii」とある。

11　霜　什嘸［ʃimu］←→［ʃimu（霜）］

12　下雨　阿梅福的［amuifu?ti?］←→［?amiɸuti（雨降て）］

13　下雪　又急福的［ɦiouki?fu?ti?］←→［iukiɸuti（雪降て）］

14　霧　氣力［k'ili?］←→［kiri（霧）］

陳侃『使琉球録』の第12條と同じ。

15　露　禿有［tu?ɦiou］←→［tuiu（露）］

『琉球館譯語』の第24條と同じ。「ツ」は「tu」と読む。

16　霞　噶喀泥［k'a?k'a?ni］←→［?akari（焼け）］

沖縄語辞典に「朝焼け　?asa?akeei」、「?ake e=juN　明るくなる」とある。kariからkai、kaiからkeeiへ変化してきたことが推測できる。第三音節の子音にn、rのズレが見える。「噶」の子音は「?」に対応する。

17　雹　科立［kuli?］←→［ku:ri（雹）］

『琉球館譯語』の第11條と同じ。

18　明日　阿着［atʃia?］←→［?atʃia（明日）］

沖縄語辞典に「明日　?aca」（ca=tʃia）とある。原本に「着」は「看」に誤れた。

19　起風　喀買福的沽［k'a?mafu?ti?ku］←→［kadzi ɸutiku（風吹てく）

第五條によると、「買」は衍字、「子」は脱けている。

20　天陰　町奴姑木的［t'iŋnukumu?ti?］←→［tiɴnukumuti（天の曇て）］

21　天晴　町奴法力的［t'iŋnufa?li?ti?］←→［tiɴnuɸariti（天の晴れて）］

22　後日　阿煞的［asa?ti?］←→［?asati（明後日）］

沖縄語辞典に「明後日　?asati」とある。

23　大後日　郁加［ɦiu?ka］←→［iu?ka（四日）］

沖縄語辞典に「四日 'juQka」とある。

二　地理

24　地　池［tʃi］←→［dʒi（地）］

25　土　足池［tsu?tʃi］←→［tsɯtʃi（土）］

26　江　密乃度［mi?nadu］←→［minatu（港）］

『琉球館譯語』の第27條と同じ。

27　河　喀哇［k'aʔua］←→［kaua（川）］

沖縄語辞典に「川　kaa」（kaa←kaua）とある。

28　海　鳥米［umi］←→［umi（海）］

29　山　呀麻［ɦiama］←→［iama（山）］

下に「間字亦讀同麻音」（間も麻のように発音する）という註があり、琉球語の「間」の訓読み「ま」も「麻」と同音することを説明を加えている。

30　水　閔子［mintsɿ］←→［mi（ɴ）dzɯ（水）］

「ズ」の前に撥音がある。

31　冰　谷亦里［kuʔɦiʔli］←→［kuːri（冰）］

「亦」は衍字。

32　路　密之［miʔtʃi］←→［mitʃi（道）］

33　岸　倭喀［uk'aʔ］←→［u ka（陸）］

34　石　一是［iʔʃi］←→［ʔiʃi（石）］

35　井　依喀喇［ik'aʔlaʔ］←→［ʔikaua（井戸）］

沖縄語辞典に「井戸　kaua」とある。「喇」は「哇 ua」の誤字だと考えられる。

36　泥　巴羅［palu］←→［duru（泥）］

「巴」は「多 tu」の誤字だと考えられる。

37　沙　是挪［ʃinu］←→［sɯna（砂）］

「挪」は「那 na」の誤字だと考えられる。「是」は「sɿ」と読む可能性も有る。

38　灰　活各力［ɦuoʔkoʔliʔ］←→［ɸokori（埃）］

39　磚　呀及一什［ɦiakiʔiʔʃi］←→［iakiiʃi（焼き石）］

40　瓦　喀哇喇［k'aʔualaʔ］←→［kauara（瓦）］

41　遠　土煞迷［t'usaʔmi］←→［tuːsa（遠さ）］

沖縄語辞典に「遠い　tuusaɴ」とある。「迷」の対音が不明。

42　近　土古尼迷［t'ukunimi］←→［dukuniː（あんまり近い）］

沖縄語辞典に「duku　あんまり・ひどく。」、「近い　nii」とある。「迷」の対音が不明。

43　長　拿夾煞［nakaʔsaʔ］←→［nagasa（長さ）］

44　短　陰夾煞［inkiaʔsaʔ］←→［ʔiɴkiasa（短い）］

沖縄語辞典に「短い　ʔiɴcasaɴ」（ca=tʃia←kia）とある。

45　前　媽乜［mamie］←→［maie（前）］

「乜」は「也 ie」の誤字だと考えられる。

46　後　嘸什的［uʃitiʔ］←→［uʃiru（後ろ）］

「的」は誤字だろう。

47　左　分搭里［fuəntaʔli］←→［ɸi(ɴ)dari（ヒ(ン)ダリ 左）］

沖縄語辞典に「左　hwizai」（zai←dari）とある。「ダ」の前に撥音がある。

48　右　名急里［miŋkiʔli］←→［mi(ɴ)giri（ミ(ン)ギリ 右）］

沖縄語辞典に「右　niziri」（ni←mi　zi←gi）とある。

49　上　威［ui］←→［ʔwiː（ウエ 上）］

沖縄語辞典に「上　ʔwii」（ii←ie）とある。

50　下　昔着［siʔtʃiaʔ］←→［ʃitʃia（シタ 下）］

沖縄語辞典に「下　sica」（si=ʃi　ca=tʃia）とある。ここの「シ」は「ス」と読む可能性がある。

51　東　窟之［kʻuʔtʃi］←→［kutʃi（こち）］

沖縄語辞典に「kuci　こち、東風。」とある。

52　西　尼失［niʃiʔ］←→［niʃi（ニシ 西）］

53　南　灰［hui］←→［ɸeː（南）］

沖縄語辞典に「南　hwee」とある。

54　北　屋金尼失［uʔkinniʃiʔ］←→［(ʔ)niʃi（ニシ 西）］

「屋金」の対音が不明、「浮」か「沖」だと推測できる。

55　府　間切［kienkʻicʔ］←→［magiri（マギリ 間切）］

沖縄語辞典に「間切　市町村制以前の行政区画の単位。」とある。中国の行政区画の「府」に相当すると思い、そのまま書き込んだと考えられる。「間切」は対音字ではない。

56　村　毋喇［ulaʔ］←→［mura（ムラ 村）］

「毋」は（母　mu）の誤字だと考えられる。

三　時令

57　春　哈羅［haʔlu］←→［ɸaru（ハル 春）］

58　夏　納之［naʔtʃi］←→［natsɯ（ナツ 夏）］

「之」は「tsɿ」と発音する可能性も有る。原本に「納」を「約」に誤れた。

59　秋　阿紀［aki］←→［ʔaki（アキ 秋）］

沖縄語辞典に「秋　ʔaci」（ci←ki）とある。

60　冬　灰唷［huiɲiuʔ］←→［ɸuiu（フユ 冬）］

61　冷　晦煞［huisaʔ］←→［ɸisa（寒い）］

沖縄語辞典に「寒い　hwiisaɴ」とある。

62　熱　阿子煞［atsɿsaʔ］←→［ʔatsɯsa（アツ 熱さ）］

63　寒　辟角羅煞［biʔkioʔlusaʔ］←→［pigiorusa（冷たい）］

沖縄語辞典に「冷たい　huizurusaN」(hui←pi　zu←giu←gio) とある。「ヒ」は「pi」と発音する。

64　暑　奴羅撒 [nulusa] ←→ [nurusa (温(ヌル)さ)]

65　陰　姑木的 [kumu?ti?] ←→ [kumuti (曇(クモ)て)]

『琉球館譯語』の第73條と同じ。

66　陽　法力的 [fa?li?ti?] ←→ [ɸariti (晴(ハレ)て)]

67　書　皮羅 [bilu] ←→ [piru (昼(ヒル))]

「ヒ」はpiと発音する。

68　夜　唷羅 [iu?lu] ←→ [iuru (夜(ヨル))]

69　朝　阿噶子吉 [aka?tsɿki?] ←→ [?akatsɯki (暁(アカツキ))]

70　晩　有煞嘸的 [fiiousa?mti?] ←→ [iusaNdi (夕暮)]

沖縄語辞典に「夕暮　jusaNdi」とある。

71　時　吐吉 [t'uki?] ←→ [tuki (時(トキ))]

72　気　亦吉 [fii?ki?] ←→ [?iki (息(イキ))]

73　年　多式 [tuʃi?] ←→ [tuʃi (年(トシ))]

74　節　些谷尼即 [sieku?nitsi?] ←→ [si?kunitʃi (節供日(セクニチ))]

「チ」は「ツ」と発音する可能性もある。

75　正月　夏括子 [hiakua?tsɿ] ←→ [ʃiauguatsɯ (正月(ショウガツ))]

沖縄語辞典に「正月　sjoogwaçi」(sj=ʃ) とある。

「が」はguaと発音し、以下の十数例も同様。第一音節の子音の対応にズレがある。

76　二月　膩括子 [nikua?tsɿ] ←→ [niguatsɯ (二月(ニガツ))]

77　三月　三括子 [sankua?tsɿ] ←→ [sanguatsɯ (三月(サンガツ))]

78　四月　式括子 [ʃi?kua?tsɿ] ←→ [ʃiguatsɯ (四月(シガツ))]

79　五月　吾括子 [ŋukua?tsɿ] ←→ [guguatsɯ (五月(ゴガツ))]

80　六月　六姑括子 [lu?kukua?tsɿ] ←→ [rukuguatsɯ (六月(ロクガツ))]

81　七月　失之括子 [ʃi?tʃikua?tsɿ] ←→ [ʃitʃiguatsɯ (七月(シチガツ))]

82　八月　瞎之括子 [ha?tʃikua?tsɿ] ←→ [hatʃiguatsɯ (八月(ハチガツ))]

83　九月　空括子 [kuŋkua?tsɿ] ←→ [ku(N)guatsɯ (九月(ク(ン)ガツ))]

「が」の前に撥音がある。

84　十月　躅括子 [dʒio?kua?tsɿ] ←→ [dʒiu:guatsɯ (十月(ジュウガツ))]

85　十一月　躅一之括子 [dʒio?i?tʃikua?tsɿ] ←→ [dʒiu:itʃiguatsɯ (十一月(ジュウイチガツ))]

86　十二月　躅膩括子 [dʒio?nikua?tsɿ] ←→ [dʒiu:niguatsɯ (十二月(ジュウニガツ))]

87　初一　之搭之 [tʃita?tʃi] ←→ [tsɯitatʃi (朔(ツイタチ))]

この例と以下の十例の対音からみると、前の「之」は当時の蘇州音で既に「tsɿ」と発

音する可能性がある。「初」は月の初旬のうちの日を指す。

88　初二　福子介　[fuʔtsɻka] ←→ [ɸutsɯka (フツカ 二日)]

89　初三　之搭之密介 [tʃitaʔtʃimiʔka] ←→ [tsɯitatʃimiʔka (ツイタチミツカ 朔三日)]

90　初四　之搭之唷介 [tʃitaʔtʃiɲiuʔka] ←→ [tsɯitatʃiiuʔka (ツイタチヨツカ 朔四日)]

91　初五　之搭之一子介 [tʃitaʔtʃiiʔtsɻka] ←→ [tsɯitatʃiitsɯka (ツイタチイツカ 朔五日)]

92　初六　之搭之美介 [tʃitaʔtʃimuika] ←→ [tsɯitatʃimuika (ツイタチムイカ 朔六日)]

93　初七　之搭之挪介 [tʃitaʔtʃinoka] ←→ [tsɯitatʃinanoka (ツイタチナノカ 朔七日)]

「na」の対音字がない。

94　初八　之搭之鴉介 [tʃitaʔtʃiiaka] ←→ [tsɯitatʃiiauka (ツイタチヤウカ 朔八日)]

95　初九　之搭之哭古魯 [tʃitaʔtʃik'uʔkulu] ←→ [tsɯitatʃikukunuka (ツイタチココノカ 朔九日)]

「カ」の対音字がなく、「ノ」の対音にn、lのズレがある。

96　初十　之搭之土介 [tʃitaʔtʃit'uka] ←→ [tsɯitatʃitu:ka (ツイタチトオカ 朔十日)]

97　十一　之一子泥子 [tʃiiʔtsɻnitsɻ] ←→ [dʒiʔitʃinitʃi (ジツイチニチ 十一日)]

二ヵ所の「チ」にともに「tsɻ」で対音している。以下の例で十二日、十三日、十六日、十七日、十八日、十九日、二十二日、二十三日、二十五日、二十六日、二十七日、二十九日、三十日十三例は同じく「チ」に「子 tsɻ」が対応し、十四日と十五日だけは「チ」に「之 tʃi」が対応する。ズレが生じているのは、発音者の訛りか記音者のミスかと考えられる。他に、「十」は「之 tʃi」で対応し、次の三例もそうである。対照的に、その次の十五日から十九日までの五例は「十」に「坐 zu」で対応している。当時の「十」は「じっ」と「じゅう」の発音が交錯的にされたようである。

98　十二　之泥泥子 [tʃininitsɻ] ←→ [dʒiʔninitʃi (ジッニニチ 十二日)]

99　十三　之三泥子 [tʃisannitsɻ] ←→ [dʒiʔsaɴnitʃi (ジッサンニチ 十三日)]

100　十四　之唷泥之 [tʃiɲiuʔnitʃi] ←→ [dʒiʔiuʔnitʃi (ジッヨッニチ 十四日)]

101　十五　坐古泥之 [zukunitʃi] ←→ [dʒiu:gunitʃi (ジュウゴニチ 十五日)]

102　十六　坐六古泥子 [zuluʔkunitɻ] ←→ [dʒiu:rukunitʃi (ジュウロクニチ 十六日)]

103　十七　坐十七泥子 [zuʒiʔtsiʔnitsɻ] ←→ [dʒiu:ʃitʃinitʃi (ジュウシチニチ 十七日)]

104　十八　坐瞎之泥子 [zuhaʔtʃinitsɻ] ←→ [dʒiu:hatʃinitʃi (ジュウハチニチ 十八日)]

105　十九　坐苦苦泥子 [zuk'uk'unitsɻ] ←→ [dʒiu:kunitʃi (ジュウクニチ 十九日)]

一つの「苦」は衍字。

106　二十　瞎子介 [hatsɻka] ←→ [hatsɯka (ハツカ 二十)]

107　二十一　瞎子介疽 [haʔtsɻkatsy] ←→ [hatsɯka (ハツカ 二十)]

「疽」は次の七例の「徂」に近い音記たと考えられる。「十 じゅう」の対応にしようとするものだが合わない。

108　二十二　瞎子介泥泥子 [haʔtsɻkaninitsɻ] ←→ [hatsɯkaninitʃi (ハツカ 二十日 ニニチ 二日)]

上旬の「朔」と同じ、「二十日」を用い、下旬の日を作り出す例である。

109　二十三　膩徂三泥子［nitsusannitsɿ］←→［nidʒiu:saɴnitʃi（ニジュウサンニチ二十三日）］

110　二十四　膩徂唷介［nizuɦiu?ka］←→［nidʒiu:iu?ka（ニジュウヨツカ二十四日）］

111　二十五　膩徂姑泥子［nitsukunitsɿ］←→［nidʒiu:gunitʃi（ニジュウゴニチ二十五日）］

112　二十六　膩徂六姑泥子［nitsulu?kunitsɿ］←→［nidʒiu:rukunitʃi（ニジュウロクニチ二十六日）］

113　二十七　膩徂失之泥子［nitsuʃi?tʃinitsɿ］←→［nidʒiu:ʃitʃinitʃi（ニジュウシチニチ二十七日）］

114　二十八　膩徂瞎之泥子［nitsuhatʃinitsɿ］←→［nidʒiu:hatʃintʃi（ニジュウハチニチ二十八日）］

115　二十九　膩徂苦苦泥子［nitsuk'uk'unitsɿ］←→［nidʒiu:kunitʃi（ニジュウクニチ二十九日）］

「苦」が一つ多い。

116　三十　三徂泥子［santsunitsɿ］←→［saɴdʒiu:nitʃi（サンジュウニチ三十日）］

四　花木

117　茶　札［tʃa?］←→［tʃia（チャ茶）］

『琉球館譯語』の第105條と同じ。

118　花　豁那［hua?na］←→［ɸana（ハナ花）］

119　葉　豁［hua?］←→［ɸa（ハ葉）］

120　枝　又打［ɦiouta］←→［iuda（枝）］

沖縄語辞典に「枝　juda」とある。

121　樹　那吉［naki?］←→［naki（？な木（キ））］

124條の後半を取って作った項目だと思われる。

122　果　吾乜［ŋumie］←→［?ume（ウメ梅）］

陳侃『使琉球録』第92條と同じ。

123　松　貿子［mɔtsɿ］←→［matsɯ（マツ松）］

124　栢　貿子那吉［mɔtsɿnoki?］←→［matsɯnoki（マツ松のキ木）］

125　竹　托几［t'o?ki］←→［taki（タケ竹）］

第一音節の母音がoとaのズレがある。

126　笋　打吉［taki?］←→［taki（タケ筍）］

127　棗　那多乜［natumie］←→［natume（ナツメ棗）］

『琉球館譯語』第116條と同じ。「ツ」は「tu」と読む。

128　木　雞［ki］←→［ki（キ木）］

129　草　谷煞［ku?sa?］←→［kusa（クサ草）］

130　梅花　呅梅［nmui］←→［?ɴmi（ウメ梅）］

沖縄語辞典に「梅　?ɴmi」とある。

131　蓮花　臨［lin］←→［riɴ（レン蓮）］

132　龍眼　客梗［k'e?kaŋ］←→［riu:ngaN（竜眼）］

「客」は「容　zˌiuŋ」の誤字だと考えられる。

133　木頭　梅呸梅拿乃［muinmuinanai］←→［?］

「梅　呸梅」は第130條と同じ、「拿乃」は次の137「桃　莫莫拿乃」の後半である。「木頭」は中国語で「木、薪」の意味を持ち、以上の内容に関係ない。

134　杉木　思雞［sɿki］←→［sigi（杉）］

135　楡木　掐雞［k'a?ki］←→［kaki（柿）］

沖縄に「楡」（ノニレの木）は存在しない。対音字の発音から見ると、恐らく「柿」である。

136　烏木　哭羅雞［k'u?luki］←→［kuruki（黒木）］

137　桃　莫莫拿乃［mo?mo?nanai］←→［momononai（桃の実）］

第三音節の母音が合わない。沖縄語辞典に「実　nai」（i←ri）とある。

138　杏　色莫莫［se?mo?mo?］←→［sumomo（李）］

139　柳　現其［ɦiɛngi］←→［ia(N)nagi（柳）］

「ナ」の対音字が脱けている。

140　芭蕉　巴拉［pala?］←→［baʃiau:（芭蕉）］

「拉」の発音は語義に合わなく、誤字であろう。

141　石榴花　石古魯［za?kulu］←→［dza?kuru（石榴）］

「石」は白読音。

142　藕　菱公［liŋkuŋ］←→［riNkuN（蓮根）］

143　扶桑花　菩薩豁那［busa?hua?na］←→［pusauɸana（扶桑花）］

「フ」はpuと発音。

144　榕　茄子埋大［gatsɿmada］←→［gadʒimaru（榕樹）］

沖縄語辞典に「榕樹　gazimaru」とある。「大」は「六　lu?」の誤字。

145　梧桐　谷多［ku?tu］←→［gutu:（梧桐）］

146　桂　雞花［kihua］←→［ki:ka（桂花）］

「カ」は中国語の発音で「ɸa」と発音することが考えられる。

147　雞冠　雞朶［kito］←→［ki:to:（鶏頭）］

148　茉莉　木一乖［mu?i?kua］←→［muikua（茉莉花）］

沖縄語辞典に「muikwa　もりか」（i←ri）とある。

149　鳳尾蕉　靴底子［hyətitsɿ］←→［sɯtitsɯ（蘇鉄）］

150　荔枝　利市［liʃi］←→［ri:tʃi（荔枝）］

第二音節子音にʃとtʃのズレがある。

151　甘蔗　翁吉［uŋki?］←→［u:(N)gi（荻）］

沖縄語辞典に「砂糖黍　uuzi」（zi←gi）とある。

152　胡椒　窟受［k'u?zou］←→［kuʃiu:（胡椒）］

蕭崇業『使琉球録』第108條と同じ。

153　蘇木　司哇［sɿua］←→［suuau（蘇枋）］

陳侃『使琉球録』第129條と同じ。

五　鳥獣

154　龍　達都［da?tu］←→［tatu（竜）］

陳侃『使琉球録』第110條と同じ。「ツ」はtuと発音。

155　虎　土拉［t'ula?］←→［tura（虎）］

156　鹿　呵呾失失［konʃi?ʃi?］←→［ko:NʃiʃI（鹿）］

沖縄語辞典に「鹿　koonusisi」（si←ʃi）とある。対音字から見ると、「nu」音節は「n」と発音するようだ。

157　馬　嘸馬［m ma］←→［?Nma（馬）］

沖縄語辞典に「馬　?Nma」とある。「ma」の前の「N」が「m」の性質が持っている。

158　獅　施失［ʃiʃi?］←→［ʃiʃi（獅子）］

159　牛　兀失［ŋu?ʃi?］←→［?uʃi（牛）］

声門破裂音「?」は「ŋ」で対応する。

160　兎　兀煞吉［ŋu?sa?ki?］←→［?usagi（兎）］

同じく「ŋ」と「?」の対応。

161　熊　谷馬［ku?ma］←→［kuma（熊）］

陳侃『使琉球録』第117條と同じ。

162　象　喳［tsa］←→［dzau（象）］

蕭崇業『使琉球録』第118條と同じ。「ウ」の対音は失記された。

163　雞　堆［tui］←→［tui（鶏）］

沖縄語辞典に「鶏 tui」（i←ri）とある。

164　鵝　鳥孤欲上［ukufiiu?ʒi］←→［?uguiʃi（鴛）］

原本に「鳥」は「鳥」（niau）の誤字になっている。「鵝」は「鴛」と別物である。第三音節はiuとiの対応で對音字の発音のu部分がない。

165　猪　呀媽失失［fiiamaʃi?ʃi?］←→［iamaʃiʃi（猪）］

166　狗　因［in］←→［?iN（犬）］

沖縄語辞典に「犬　?iN」（N←nu）とある。

167　皮　喀哇［k'a?ua］←→［kaua（皮）］

168　鼠　聶［nie?］←→［ne（子）］

『琉球館譯語』の第154條と同じ。鼠は十二支の「子」に当たる。

169　鴉　打答噶［tata?ka?］←→［?taka（鷹）］

『琉球館譯語』に「鴉　達個」、陳侃『使琉球録』に「鴉　打答噶」とある。「答噶」は鷹で、「打」は「大」（大きい）でしょうか。中国語で鷹、鴉は別物で、単なる同音なので、同音假借字だと考えられる。

170　羊　皮着［bidʒia?］←→［pidʒia:（山羊）］

沖縄語辞典に「山羊 hwiizaa」（hwi←pi zaa=dzia:）とある。

171　蛇　密密［mi?mi?］←→［mi（巳）］

『琉球館譯語』に「蛇　密密」とある。「蛇」は十二支の第六の「巳」に当たる。「密」一字は衍字だと考えられる。

172　猴　煞陸［sa?lu?］←→［saru（猿）］

173　亀　喀乜［k'a?mie］←→［kame（亀）］

174　雀　由門多里［ɦioumuntuli］←→［iumu(ɴ)duri（雀）］

沖縄語辞典に「雀　jumudui」（i←ri）とある。「du」の前に鼻音がある。

175　鳳凰　呼窩［huuo］←→［ɸu:uo:（鳳凰）］

蕭崇業『使琉球録』の第134條と同じ。沖縄語辞典に「鳳凰　huuoo」（oo←uo:）とある。

176　麒麟　其鄰［gilin］←→［kiriɴ（麒麟）］

沖縄語辞典に「麒麟　ciriɴ」（ci←ki）とある。

177　孔雀　枯雀姑［k'utsia?ku］←→［kudʒiaku（孔雀）］

沖縄語辞典に「孔雀　cujacu」とある。

178　獬豸　賭宅［ha?tʃə?］←→［kaitʃi（獬豸）］

第一音節の対応はズレがある。「獬」の中国近世音は「hiai」であり対音の子音はそれに影響されたかもしれない。『琉球館譯語』に「賭」は（害　hai）とし、『中山伝信録』はそれを写し間違えた可能性もある。

179　仙鶴　司禄［sɳlu?］←→［tsuru（鶴）］

陳侃『使琉球録』の第139條と同じ。第一音節の子音はs、tsのズレがある。

180　象牙　喳冷其［tsaləŋgi］←→［dzaugi:（象牙）］

蕭崇業『使琉球録』の第139條と同じ。「冷」は衍字か「の」のような対音の誤字かと考えられる。

181　玳瑁　喀也那各［k'a?ɦienoko?］←→［kamenoko:（亀の甲）］

沖縄語辞典に「亀の甲kaamiinukuu」(nu←no　kuu←koo) とある。「也」は「七 mie」の誤字。173條「龜　喀七」。

182　牛角　兀失左奴 [ŋuʔʃiʔtsunu] ←→ [ʔuʃidzɯnu (牛角(ウシヅノ))]

原本には「兀」でなく、「元　ɦyan」であった。159條「牛　兀失」によって訂正した。

183　喜鵲　孔加喳司 [k'uŋkatsasɿ] ←→ [ku(ɴ)garasɯ (小烏(コ(ン)ガラス))]

喜鵲、カササギのことである。ここは「小烏」の発音に想定できる。「喳」は誤字。

184　鶴項　拖立奴谷之 [tuliʔnukuʔtʃi] ←→ [turinukutʃi (鶏の口(トリ　クチ))]

鶴項、鶏の「とさか」のこと。「口」と違う。

六　宮室

185　宮　迷耶 [miɦia] ←→ [miia (宮(ミヤ))]

186　屋　耶 [ɦia] ←→ [ia (屋(ヤ))]

187　門　濁 [dʒoʔ] ←→ [dʒio: (門)]

沖縄語辞典に「門　zoo」(zoo=dʒio:) とある。

188　戸　耶獨可之 [ɦiaduʔk'utʃi] ←→ [iadukutʃi (宿口(ヤドクチ))]

冊封使が宿泊している「ヤド」の出入り口だと考えられる。戸、中国語で「一枚扉」のこと。

189　窓　馬都 [matu] ←→ [madu (窓(マド))]

190　墻　掐几 [k'aʔki] ←→ [kaki (垣(カキ))]

191　垣　仝止 [duŋtʃi] ←→ [tu(ɴ)dʒi (閉(ト(ン))じ)]

「仝」は「同」の異体字。垣、閉じられた場所だと言える。「じ」の前に撥音がある。

192　亭　堤 [di] ←→ [ti: (亭(テイ))]

193　園　膩滑 [niɦuaʔ] ←→ [niua (庭(ニワ))]

194　揩　乞齋穻書 [k'iʔtsaiuaʔʃiu] ←→ [kidzaiɸaʃi (階段の梯子)]

沖縄語辞典に「階段　kiẓai」、「梯子　hasi」(ha←ɸa　si=ʃi) とある。

又喀呾條書 [k'aʔndiɔʃiu] ←→ [?]

又音である。「唐橋」(からはし) か「懸橋」(かけはし) かと考える。

195　瓦房　喀喇亦棄牙 [k'aʔlaʔɦiʔkiɦia] ←→ [ka:raieia (瓦家屋(カワライエヤ))]

蕭崇業「使琉球録」の第153條と同じ。

沖縄語辞典に「瓦　kaara」(二番目のa←ua)とある。「棄」は「葉　ɦieʔ」の誤字。

七　器　用

196　弓　憂米 [ioumi] ←→ [iumi (弓(ユミ))]

197　箭　一牙 [iʔɦia] ←→ [ia (矢(ヤ))]

198　担桶　呅格［ukəʔ］←→［uki（桶）］

199　木杓　你波［nipu］←→［nibu（柄杓）］

沖縄語辞典に「柄杓　niibu」とある。

200　脚踏棉　波着子［pudʒiaʔtsɿ］←→［?］

胡靖「杜天使冊封琉球真記奇觀」によると、脚踏棉は「ただみ」を指す。

201　棹　埲［puŋ］←→［?］

棹は櫓、櫂、竿などの意味を持つ。対音字の発音に合う言葉は「棒［bu:］」であろうか。

202　浴桶　克塔里［k'əʔtaʔli］←→［kitari（木樽）］

203　椅子　倭里那［uolina］←→［?］

204　風爐　魯［lu］←→［ru（爐）］

205　牙刷　番呅脚雞母魯［fannkiaʔkimulu］←→［ɸa(ɴ)kakimunu（歯(ン)ガキモノ）］

206　畚箕　失忒［ʃiʔt'əʔ］←→［ʃide（四手）］

「四手」状の「箕（み）」だと考えられる。

207　戥子　法介依［faʔkai］←→［ɸakai（秤）］

沖縄語辞典に「秤　hakai」（i←ri）とある。

208　天平　靨馬答白［t'iŋmataʔbaʔ］←→［?］

「靨」は「天」の対音のようだ。

209　刀　和着［ɦudʒiaʔ］←→［ɸu:tʃiau（包丁）］

210　刀鞘　絲古禮耶［sɿkulifiia］←→［sɯgusaia（直グ鞘）］

「琉球入學見聞録」に「禮」でなく、正字の「撒」（saʔ）である。

211　轎子　夾介子［kaʔkatsɿ］←→［kagukatʃi（馬籠）］

沖縄語辞典に「駕籠　kagukaci」とある。「gu」の対音字が脱けている。

212　木套　阿書着［aʃiudʒiaʔ］←→［ʔaʃidʒia（足駄）］

沖縄語辞典に「足駄　tacibaaʔasiza」（za=dʒia）とある。

213　傘　夾煞［kaʔsaʔ］←→［kasa（傘）］

214　竹爿　兀執［ŋuʔtʃiʔ］←→［kudʒi（籤）］

竹爿、竹の薄片。

215　床　閑札古［ɦandzaʔku］←→［?］

216　燈　禿羅［t'uʔlu］←→［tu:rui（燈籠）］

217　面桶　他古［t'aku］←→［ta:gu（桶）］

面桶、顔を洗う桶。沖縄語辞典に「桶　taagu」とある。

又他里［t'ali］←→［tarai（盥）］

又音。「ai」は「里」の「i」に合わないが、「e:」になっている可能性もある。

218 鍋 那脾 [nabi] ←→ [naːbi (鍋)]

沖縄語辞典に「鍋 naabi」とある。

219 鍋蓋 福大 [fuʔda] ←→ [ɸuta (蓋)]

220 瓦礰 之呾 [tʃin] ←→ [?]

221 瓢 彌呾 [min] ←→ [?]

222 掃箒 火氣 [huki] ←→ [hoːki (箒)]

沖縄語辞典に「箒 hooci」(ci←ki) とある。

223 船 胡你 [ɦuni] ←→ [ɸuni (船)]

224 算盤 山姆盤 [sanmban] ←→ [saNbaN (算盤)]

「そろばん」ではなく、中国語音に近い。

225 油盞 雖之既 [suitʃiki] ←→ [ʃidʒiki (油皿)]

沖縄語辞典に「油皿 sizici」(ci←ki) とある。

226 木梳 沙八巳 [sapaʔsɿ] ←→ [sabaki (櫛)]

沖縄語辞典に「櫛 sabaci」(ci←ki) とある。「巳」は「己 ki」の誤字。

227 甕 客凷 [kʻaʔmi] ←→ [kaːmi (甕)]

228 索 爭拿 [tsəŋna] ←→ [tsɯ(N)na (綱)]

229 斧頭 霞爽 [ɦiaʃuaŋ] ←→ [ʃaːɸuNgwaː (斧)]

沖縄語辞典に「斧 saaɦuNgwaa」とある。琉球語音を見ると、対音字の前後関係が逆のようだ。二音節もそれぞれズレがある。

230 湯盆 他阿喇 [tʻaalaʔ] ←→ [tarai (盥)]

「阿」は長音を記録した。「イ」の對音字は脱けた。

231 竹籠 古衣八古 [kuipaʔku] ←→ [kuːbaku (籠箱)]

沖縄語辞典に「籠 kuu」、「箱 haku」とある。「衣」は衍字であり、上の項目「湯盆」から来たかもしれない。

232 筋 賣生 [maiʃəŋ] ←→ [maiʃi (箸)]

沖縄語辞典に「箸 meesi」(ee←ai) とある。「生」は「失 ʃiʔ」の誤字だと考えられる。

又皮爬失 [bibaʃiʔ] ←→ [pibaʃi (火箸)]

又音。「ヒ」はpiと発音する。

233 鎖 柴心 [zasin] ←→ [saːsɯ (錠)]

沖縄語辞典に「錠 saaṣi」(ṣi=si) とある。

又沙四内古 [sasɿnuiku] ←→ [saːsɯnuʔkua (鍵)]

又音。沖縄語辞典に「鍵 saaṣinuQkua」(kua←ko) とある。「内」の母音は琉球音に

ズレがある。

234　烟筒　啓力［kili?］←→［kiʃiri（煙管）］

沖縄語辞典に「煙管　cisiri」とある。第二音節の対音字が脱けた。「琉球入學見聞録」に「烟筒　奇失禮」とある。

235　荷包　荷作［ɦuza?］←→［ɸusa（房）］

荷包は、袋物、きんちゃく、ポシェットのこと。

236　茶鐘　茶碗［tʃiauan］←→［tʃiauaN（茶椀）］

237　飯碗　麥介衣［ma?kai］←→［makai（椀）］

沖縄語辞典に「椀　makai」（i←ri）とある。

238　銅礶　約慣［ia?kuan］←→［ia?kuaN（薬罐）］

沖縄語辞典に「薬罐　jaQkwaN」とある。「カ」は「kua」と読む。

239　爐簽　式執直［ʃi?tʃi?dʒi?］←→［ʃidʒitʃi（油皿）］

225條「油盞　雖之既」と同じ。油盞は油皿といい、爐簽はろうそく立てという。

240　圍棋　古［ku］←→［gu（碁）］

241　香爐　科爐［kolu］←→［koːru（香炉）］

沖縄語辞典に「香炉　?ukooru」とある。

242　箱子　科阿里阿哥［kualiaku］←→［kuːarihaku（香あり箱）］

第四音節「ハ」の子音が失記した。

243　面盆　汗你及里［ɦanniki?li］←→［?］

244　盤　他喇古［t'ala?ku］←→［?］

245　匣　哥八［kupa?］←→［paku（匣）］

対音字は「八哥」であるべき。「ハ」は「pa」と読む。

246　水注　閔子磁之［mintsɳdzɳtʃi］←→［mi(N)dzɯtsɯdʒi（水注）］

「ズ」の前に撥音がある。

247　鏡子　喀敢泥［k'a?kanni］←→［kaganni（鏡）］

沖縄語辞典に「鏡　kagaN」とある。対音字から見ると、kaganniと読むこともあった。撥音の頭子音化現象は琉球語に存在する。例えば、「琉球館譯語」に「天　甸尼」（tienni）とある。次の項目の「奴」もそうである。

248　酒壺　虧奴［k'uinu］←→［kuɸinu（小瓶）］

酒器の一種、沖縄語辞典に「小瓶　kuhwiN」とある。対音字からみると、「ン」から「nu」の発音に変化した。撥音の頭子音化といえば、「nnu」と読むべき、撥音が直接に「な」行の発音に変化するのに違い、この例はまた研究する必要がある。対音字「虧」は「コヒ」二音節に対応している。

249　燭簽　亂思古苔［luonsɳkudai］←→［roːsokudai（蝋燭台）］

対音字「亂」の「-n」の部分が琉球音に対応できない。現代蘇州音の「亂」の「-n」が既に消失して、いわゆる中古山咸二攝の韻尾消失現象である。その現象は最初に文献に記録したのは1790年頃の韻書「荊音韻彙」であり、「中山伝信録」より七十年後のことである。「中山伝信録」に山咸二攝の舒声字が二十数例用いられ「-n」は撥音と対応しないのは「亂」と384の「漫」の二回しかない。孤例だが山咸二攝韻尾消失現象の先兆例とみても良いかもしれない。

250　短簪　喀你煞失［kʻaʔnisaʔʃiʔ］←→［kamisaʃi（髪差し）］

「ミ」はniと読む。

251　長簪　彌誇［mikʻua］←→［mikuuai（御慈姑）］

「i」の対音字が無い。「慈姑」は「慈姑頭」の略。髪に差す「簪」が結髪の形に間違えて音記したと思われる。

252　酒盃　失六加泥［ʃiʔluʔkani］←→［ʃirukani（銀）］

酒盃の原材料を言っている。

253　象棋　冲棋［tʃʻiuŋgi］←→［tʃiuɴgi（将棋）］

沖縄語辞典に「将棋　cuɴzii」（zi←gi）とある。

254　盔　噶塢吐［kaʔutʻu］←→［kabuto（兜）］

蕭崇業「使琉球録」の第154條と同じ。第二音節の子音が合わない。

255　甲　幼羅衣［ioului］←→［iurui（甲）］

陳侃「使琉球録」の第158條と同じ。

256　弦　子奴［tsɳnu］←→［tsɯru（弦）］

蕭崇業「使琉球録」の第159條と同じ。第二音節の子音はn、lのズレがある。

257　鎗　牙立［ɦialiʔ］←→［iari（槍）］

陳侃『使琉球録』の第163條と同じ。

258　盆　大剌［dalai］←→［tarai（盥）］

陳侃『使琉球録』の第166條と同じ。

259　瓶　四胡平［sɳɦubiŋ］←→［?］

蕭崇業『使琉球録』に「瓶　匹胡平」とある。「四、平」は皆な誤字のようだ。

260　船　莆泥［pʻuni］←→［puni（船）］

蕭崇業『使琉球録』第166條と同じ。「フ」はpuと読む。

261　桅　花時［huaʒi］←→［ɸaʃi（橋）］

『琉球館譯語』の第223條と同じ。

262　舵　看失［kʻaɴʃiʔ］←→［ka(ɴ)ʒi（舵）］

『琉球館譯語』の第224條と同じ。「ジ」の前に撥音がある。

263　櫓　羅［lu］←→［ru（櫓）］

『琉球館譯語』の第225條と同じ。

264　篷　賀［ɦu］←→［hu（帆）］

『琉球館譯語』の第226條と同じ。篷、船のとま。

265　帯　文筆［vəɴpiʔ］←→［ʔu(ɴ)bi（帯）］

「ビ」の前に撥音がある。

266　書　什麼子［ʃimntsɿ］←→［ʃiumutsɯ（書物）］

沖縄語辞典に「本　sjumuçi」とある。琉球語の「ʃiu」が「ʃi」で対応している。対音字音と琉球音の両者はiとiuのズレが何か所もある。これは徐葆光記音の特徴の一つと言え、蘇州音iuのu消失、或いは［y］の圓脣特徴の消失現象が進み、記音者はiu（或いは［y］）とiの区別はできなくなったことを意味すると考えられる。

267　畫　夷夷喀之［ɦiɦikʼaʔtʃi］←→［iːkatʃi（絵書き）］

沖縄語辞典に「絵　ii」とある。対音字はその長音とkiの口蓋化音を記録した。

268　字　阿三那［asanna］←→［ʔadza(ɴ)na（字）］

沖縄語辞典に「字　ʔaẓana」とある。「ナ」の前に撥音がある。

269　筆　夫的［fu tiʔ］←→［ɸudi（筆）］

270　墨　細米［simi］←→［sɯmi（墨）］

271　紙　瞎皮［haʔbi］←→［kabi（紙）］

沖縄語辞典に「紙　kabi」とある。第一音節の子音の対応はズレがある。

272　硯　思子里［sɿtsɿli］←→［sɯdzɯri（硯）］

273　扇子　丫吉［okiʔ］←→［ʔoːgi（扇）］

沖縄語辞典に「扇　ʔoozi」（zi←gi）とある。

274　屏風　飄布［pʼiɔpu］←→［biobu（屏風）］

275　花瓶　抛拿［pɔna］←→［pana（花）］

蕭崇業『使琉球録』の第184條と同じ。「ハ」はpaと発音する。

276　香盒　福法名［fuʔfaʔmiŋ］←→［kauɸako（香盒）］

『琉球館譯語』に「香盒　稿法个」、陳侃『使琉球録』に「香盒　福法各」とあり、陳録の「福」は譯語の「稿　kau」の誤字。中山伝信録は陳録に従がい、「名」は「各　koʔ」の誤字。

277　倭扇　枉其［uaŋgi］←→［uoːɴgi（扇）］

第273條を参照。沖縄語辞典に「扇　ʔoozi」（ʔoo←uoː）とある。「ギ」の前に撥音がある。蕭崇業『使琉球録』の第186條と同じ。第273條より古い発音をしている。

278　玉帯　衣石乞各必［iʃiʔkʼiʔkoʔpiʔ］←→［iʃikikiobi（石帯）］

おもろさうしに「帯　ききよび」とある。陳侃『使琉球録』の195條と同じ。

279　金杯　孔加泥麻佳里［kuŋkanimakali］←→［ku(ɴ)ganimakari（黄金椀）］

陳侃『使琉球録』の第195條「金鐘」と同じ。「椀」は第237條「飯椀」を参照できる。「ガ」の前に撥音がある。

280　圍棋　右［ɦiou］←→［gu（碁）］

第240條「圍棋　古」と同じ、「右」は「古　ku」の誤字。

八　人物

281　皇帝　倭的毎［uti?mui］←→［?uti:me:（御帝前）］

『琉球館譯語』の第277條と同じ。沖縄語辞典に「?u　御、敬語の接頭辞」（?u←uo）、-mee［前］、様。尊敬の意を表わす接尾辞」（mee←mai←maye）とある。

282　国王　哭泥華［k'u?niɦuo］←→［kuniuo:（国王）］

283　王妃　倭男禮喇［unanlila?］←→［una(ɴ)dʒiara（女按司）］

蕭崇業『使琉球録』の第194條には「王妃　倭男札喇」とある。ここの「禮」は「札」（tʃa?）の誤字。沖縄語辞典に「unazara　女按司　王の妻妾」とある。「dʒia」の前に撥音がある。

284　王子　倭奴鬱勃人誇［u nuiu?bo?ʒənk'ua］←→［onu(？)kua（王の（?）子）］

沖縄語辞典に「子　Qkwa」とある。蕭崇業『使琉球録』に「王子　倭奴爵勃人誇」とある。ここの「鬱」は「爵」の誤字。また、「爵勃人」の意味は不明。

285　朝廷　倭毎奴［umuinu］←→［?ume:nu（御前の）］

『琉球館譯語』の第282條と同じ。沖縄語辞典に「?umee　御前　御前様、殿様、御殿の主人公に対する敬称。昔、按司と称した者が首里に居宅をかまえて住むようになってからは、?umeeといわれるようになった。」とある。

286　大夫　大福［dafu?］←→［taiɸu（大夫）］

『琉球館譯語』に「大夫　太福」がある。ここの「大」は「太　t'ai」の誤字だと考えられる。

287　長史　丈史［dʒiaŋʃi］←→［tʃianʃi（長史）］

288　使者　使臣［ʃidʒin］←→［ʃiʒin（使臣）］

『琉球館譯語』の第285條と同じ。

289　通事　通資［t'uŋtsɿ］←→［tu(ɴ)ʒi（通事）］

「ツ」はtuと読む。蕭崇業『使琉球録』の第201條と同じ。

290　正使　申司［ʃinsɿ］←→［ʃinʃi（正使）］

陳侃『使琉球録』の第202條と同じ。「正」の発音「しん」は中国音に近い。

291　副使　付司［fusɿ］←→［ɸuʃi（副使）］

陳侃『使琉球録』の第206條と同じ。「副」の発音「ふ」は中国音「フッ」に近い。

292　大老爺　阿几噶那什［akika?naʃi］←→［?agiganaʃi:（按司加那志）］

老爺、旧時、一般人の官吏に対する称呼。大老爺、地位の高い官僚。沖縄語辞典に「按司　ʔazi」(zi=dʒi←gi)、「ganasii　加那志、表敬の接尾辞」とある。

293　老爺　安主 [antʃiu] ←→ [ʔa(ɴ)dʒi (按司(アン ギ))]

上條に参照できる。「ギ」の音節、上は「gi」、ここは「dʒi」と発音、当時の「gi」が「dʒi」に変化中、口蓋化が進んでいる資料とも言えるかもしれない。沖縄語辞典に「按司　ʔaɴzi」とある。

294　大臣　沈噶 [ʃinkaʔ] ←→ [ʃiɴka (臣下(シンカ))]

295　女婿　母姑 [muku] ←→ [mu:ku (婿(ムコ))]

沖縄語辞典に「婿　muuku」とある。

296　祖　五虎之 [ŋuhutʃi] ←→ [ʔuɸuʃiu: (大主)]

沖縄語辞典に「父方の一番上の伯父 ʔuhusjuu」とある。第三音節の「u:」の部分が失記された。

297　孫子　姆馬噶 [mumakaʔ] ←→ [ʔɴmaga (孫(マゴ))]

沖縄語辞典に「孫　ʔɴmaga」とある。

298　父　會几噶烏耶 [ɦuikikaʔuɲia] ←→ [uikigaʔuia (父親)]

沖縄語辞典に「父親　'wikiga ʔuja」とある。

299　子　括 [kuaʔ] ←→ [ʔkua (子(コ))]

第284條「王子」を参照できる。

300　女児　會南姑括 [ɦuinankukuaʔ] ←→ [uina(ɴ)gugua (娘)]

沖縄語辞典に「娘　uinaguɴgwa」とある。対音字音によると「gua」の前ではなく「gu」の前に撥音がある。

301　大　五晦煞 [ŋuhuisaʔ] ←→ [ʔuɸisa (大きい)]

沖縄語辞典に「大きい　ʔuhwisan」とある。

302　小　枯煞 [k'usaʔ] ←→ [ku:sa (小さい)]

沖縄語辞典に「小さい　kuusaɴ」とある。

303　弟婦　唷美 [ɦiuʔmi] ←→ [jumi (嫁(ヨメ))]

「弟婦」、弟嫁のこと。

304　妻　拖厨 [t'udʒiu] ←→ [tudʒi (妻)]

沖縄語辞典に「妻　tuzi」とある。

305　夫　戸多 [ɦutu] ←→ [utu (夫(オト))]

沖縄語辞典に「夫　utu」とある。

306　弟　尾多 [uʔtu] ←→ [ʔuʔtu (弟)]

沖縄語辞典に「弟　ʔuQtu」とある。

307　兄　洗之 [sitʃi] ←→ [si:dza (兄)]

沖縄語辞典に「兄　ʂiiʐa」とある。当時の蘇州音に「之」の声母は既に音変化して「ts」と読むことも考えられる。

308　朋友　獨需［duʔsiu］←→［duʃi（友達）］

沖縄語辞典に「友達　dusi」とある。

309　你　呀［ɦia］←→［ʔia:（お前）］

沖縄語辞典に「お前（第二人称）ʔjaa」とある。

310　我　穴吒［uaʔn］←→［uaɴ（私）］

沖縄語辞典に「私、自称　waɴ」とある。

311　妓　俗里［zuʔli］←→［zuri（女郎）］

沖縄語辞典に「ʐuri　女郎、遊女、娼婦」（ʐu=zu）とある。

312　母　會南姑鳥耶［ɦuinankuuɦia］←→［uina(ɴ)guuja（母親）］

沖縄語辞典に「母親　uinaguuja」とある。「gu」の前に撥音がある。

313　男　會几噶［ɦuikikaʔ］←→［uikiga（男）］

沖縄語辞典に「男　'wikiga」とある。

314　女　會南姑［ɦuinanku］←→［uina(ɴ)gu（女）］

沖縄語辞典に「女　'winagu」とある。「gu」の前に撥音がある。

315　丫頭　土母［t'umu］←→［tumu（供）］

丫頭、侍女のこと。

316　僕　濃煞［nuŋsaʔ］←→［?］

僕、しもべのこと。

317　親戚　喂街［uika］←→［ʔue:ka（親戚）］

沖縄語辞典に「親戚　ʔweeka」とある。

318　公子　三波堤［sanpudi］←→［sa(ɴ)mure:（士族）］

沖縄語辞典に「士族　samuree」（ree←rai）とあり、「侍」のことと思う。「mu」の前に撥音がある。子音のpとm、dとrはズレがあるが調音部分が同じ。

319　客人　客姑［kʻaʔku］←→［kiaku（客）］

沖縄語辞典に「客　caku」（ca=tʃia=kia）とある。

320　主人　堤就［ditsiou］←→［tiiʃiu（亭主）］

第二音節の子音はtsとʃのズレがある。

321　唐人　叨濃周［tʻaunuŋtʃiou］←→［taunu(ɴ)dʒiu（唐の人）］

沖縄語辞典に「人　Qcu」（ʔtʃiu）とある。「濃」の対音から見ると「人」は濁音化した。

322　姉　洗之烏乃［sitʃiunai］←→［si:zaunai（姉）］

沖縄語辞典に「姉　ʂiiʐaunai」とある。第二音節の「tʃi」と「za」はズレがある。

323　妹　尾多烏乃［uʔtuunai］←→［ʔuʔtuunai（妹）］

沖縄語辞典に「妹　ʔuQtuunai」とある。

324　貧　平素奴周［biŋsunutʃiou］←→［piɴsu:nutʃiu（貧乏な人）］

沖縄語辞典に「貧乏　hwiɴsuu」（hwi←pi）とある。「ヒ」は「pi」と発音する。

325　富　喂既奴周［ueikinutʃiou］←→［ʔue:ki:nutʃiu:（金持ちの人）］

沖縄語辞典に「ʔweekii　金持ち」とある。

326　和尚　巴子［patsɿ］←→［bautsɯ（坊主）］

沖縄語辞典に「坊主　booʒi」とある。

327　醫生　一着［iʔdʒiaʔ］←→［ʔiʃia（医者）］

328　伯　洗之渾局［sitʃifiuəngiuʔ］←→［si:zauɴkiu:（兄叔父）］

沖縄語辞典に「兄　ʂiiʐa」、「叔父　ʼuɴcuu」（cuu=tʃiu←kiu）とある。

329　叔　尾多渾局［uʔtu fiungiuʔ］←→［ʔuʔtuuɴkiu:（弟叔父）］

沖縄語辞典に「弟　ʔuQtu」とある。

330　姑娘　喂媽［uima］←→［ʔwi:masai（美しくなること）］

沖縄語辞典に「ʔwiimasai　成長するに従って美しくなること。」とある。「sai」の対音字がない。姑娘、若い女のことで美しくなることと違うが関連がある。

331　爹　靴羅買［hyluma］←→［φiruma（昼間）］

爹、中国語で父上や方言で祖父の意味を持つ。ここは発音に基づき解読して「爹」は「昼」の誤字だと考えている。

332　娘　阿姆買［amma］←→［ʔaɴma:（母）］

沖縄語辞典に「母　ʔaɴmaa」とある。娘、中国語で母のことと言う。

333　阿姪　威［ui］←→［ui:（甥）］

阿姪、おいのこと。

334　小孩子　歪拉培［hualaʔbei］←→［ualabe（童）］

小孩子、子供のこと。

335　丈人　色多［seʔtu］←→［ʃita（舅）］

丈人、妻の父。沖縄語辞典に「舅　situ」とある。

336　師父　失農褒［ʃiʔnuŋpau］←→［ʃinu(ɴ)bau:（師の坊）］

蕭崇業「使琉球録」の第205條と同じ。

337　琉球人　倭急拿必周［ukiʔnapiʔtʃiou］←→［ʔuki:napitʃiu:（沖縄人）］

陳侃「使琉球録」第212條と同じ。沖縄語辞典に「沖縄　ʔucinaa」（ci←ki），「人　hwitu」（hwi←pi）、「人　Qcu」とある。対音字音から見ると、当時に「hwitu」と「Qcu」の組み合わせ式の「picu」や「hwicu」の発音が存在する。「ヒ」はpiと発音する。

338　日本人　亞馬吐必周［iamatʼupitʃiou］←→［iamatupitʃiui（大和人）］

沖縄語辞典に「妹　ʔuQtuunai」とある。

324　貧　平素奴周［biŋsunutʃiou］←→［piɴsu:nutʃiu（貧乏な人）］

沖縄語辞典に「貧乏　hwiɴsuu」（hwi←pi）とある。「ヒ」は「pi」と発音する。

325　富　喂既奴周［ueikinutʃiou］←→［ʔue:ki:nutʃiu:（金持ちの人）］

沖縄語辞典に「ʔweekii　金持ち」とある。

326　和尚　巴子［patsɿ］←→［bautsɯ（坊主）］

沖縄語辞典に「坊主　booʒi」とある。

327　醫生　一着［iʔdʒiaʔ］←→［ʔiʃia（医者）］

328　伯　洗之渾局［sitʃifiuəngiuʔ］←→［si:zauɴkiu:（兄叔父）］

沖縄語辞典に「兄　ʂiiẓa」、「叔父　'uɴcuu」（cuu=tʃiu←kiu）とある。

329　叔　尾多渾局［uʔtu fiungiuʔ］←→［ʔuʔtuuɴkiu:（弟叔父）］

沖縄語辞典に「弟　ʔuQtu」とある。

330　姑娘　喂嫣［uima］←→［ʔwi:masai（美しくなること）］

沖縄語辞典に「ʔwiimasai　成長するに従って美しくなること。」とある。「sai」の対音字がない。姑娘、若い女のことで美しくなることと違うが関連がある。

331　爹　靴羅買［hyluma］←→［ɸiruma（昼間）］

爹、中国語で父上や方言で祖父の意味を持つ。ここは発音に基づき解読して「爹」は「昼」の誤字だと考えている。

332　娘　阿姆買［amma］←→［ʔaɴma:（母）］

沖縄語辞典に「母　ʔaɴmaa」とある。娘、中国語で母のことと言う。

333　阿姪　威［ui］←→［ui:（甥）］

阿姪、おいのこと。

334　小孩子　歪拉培［hualaʔbei］←→［ualabe（童）］

小孩子、子供のこと。

335　丈人　色多［seʔtu］←→［ʃita（舅）］

丈人、妻の父。沖縄語辞典に「舅　situ」とある。

336　師父　失農褒［ʃiʔnuŋpau］←→［ʃinu(ɴ)bau:（師の坊）］

蕭崇業「使琉球録」の第205條と同じ。

337　琉球人　倭急拿必周［ukiʔnapiʔtʃiou］←→［ʔuki:napitʃiu:（沖縄人）］

陳侃「使琉球録」第212條と同じ。沖縄語辞典に「沖縄　ʔucinaa」（ci←ki），「人　hwitu」（hwi←pi）、「人　Qcu」とある。対音字音から見ると、当時に「hwitu」と「Qcu」の組み合わせ式の「picu」や「hwicu」の発音が存在する。「ヒ」はpiと発音する。

338　日本人　亞馬吐必周［iamat'upitʃiou］←→［iamatupitʃiui（大和人）］

蕭崇業「使琉球録」の第215條と同じ。沖縄語辞典に「大和　'jamatu」とある。

339　朝貢使臣　噶得那使者［kʻatəʔnaʃitʃie］←→［ʔʃiʃia（？使者）］

340　琉球国王　倭急拿敖那［ukiʔnaŋauna］←→［ʔukinaːauːna（沖縄王な）］

陳侃「使琉球録」の第220條と同じ。「琉球館譯語」に「國王　敖那」、「王子　敖那烏哇」など「王」に関する項目が多数有る。「敖那」の「那」は「N」から変化してきて「天テニ」のようなものだと考えられる。

九　人事

341　作揖　禮及［likiʔ］←→［riːgi（礼儀）］

342　洗浴　阿美的［amitiʔ］←→［ʔamiti（浴る）］

「ビ」は「mi」と発音する。沖縄語辞典に「ʔamiti　水浴する」とある。

343　上人洗面　烏木的阿采［umuʔtiʔatsʻai］←→［ʔuimutiʔarai（上の方洗い）］

沖縄語辞典に「上の方　ʔwiimuti」とある。上人洗面、目上の人が顔を洗う。

「采」は来laiの誤字。

344　下人洗面　思答阿来来［sɻtaʔalaiai］←→［ʃitaʔarai（下洗い）］

一つの「来」は衍字。

345　拳頭打　蹄子拱［ditsɻkuŋ］←→［tiːtsɯkuɴ（手突く）］

拳頭打、こぶしで打つ。沖縄語辞典に「手　tii」「突く　çicuɴ」とある。

346　打　烏兄［uhiuŋ］←→［ʔutʃiuɴ（打つ）］

沖縄語辞典に「打つ　ʔucuɴ」とある。第二音節の子音は合わない。

347　脱衣　輕化子榮［kʻiŋɦuatsɻɦiuŋ］←→［kiɴhadziiuɴ（着物脱ぐ）］

沖縄語辞典に「着物　ciɴ」、「脱ぐ　haẓijuɴ」とある。

348　殺　枯必起［kʻupiʔkʻi］←→［kubikii（首切り）］

349　大酔　威帝［uiti］←→［ʔuiːti（酔う）］

沖縄語辞典に「ʔwiiti　酔う」とある。

350　睡　殷帝［inti］←→［niɴti（眠る）］

沖縄語辞典に「ninti　眠る」とある。第一音節の子音があわない。

351　上人吃　三衣米小利［sanimisiauli］←→［saimiʃiagari（さい召しあがり）］

上人、目上の人。沖縄語辞典に「sai　目上に話しかける時、呼びかける時などに男が発する敬語。」とある。「三」の「n」の部分は当時の蘇州音で消失した可能がある。「しあが」三音節は「小」に当たると思われる。

352　疼　呀的［ɦiatiʔ］←→［iadi（痛む）］

沖縄語辞典に「jadi　痛む」とある。

353　痛　阿格着［akəʔdʒioʔ］←→［ʔaʔkidʒioː（ああ）］

沖縄語辞典に「ʔaQkijoo　ああ」。失望した時などに女の発する語。死者を悲しんで女が泣く声。」とある。

354　洗東西　阿約的［aiaʔtiʔ］←→［ʔarati（洗う）］

沖縄語辞典に「ʔarati　洗う」とある。東西、品物のこと。「約」は「納」（na）の誤字だと思う。

355　採花　拾奴吉之［dainukiʔtʃi］←→［?］

採花、花を摘むこと。「吉之」は「切って」の意味のようだ。

356　行路　阿之［atʃi］←→［ʔaʔtʃi（歩く）］

沖縄語辞典に「ʔaQci　歩く」とある。

357　等待　末之［maʔtʃi］←→［maʔtʃi（待つ）］

沖縄語辞典に「maQci　待つ」とある。

358　病　牙的［ɦiatiʔ］←→［iadi（病む）］

沖縄語辞典に「jadi　病む」とある。

359　生　一吉之［iʔkiʔtʃi］←→［ʔikitʃi（生きる）］

沖縄語辞典に「ʔicici　生きる」（ci←ki）とある。

360　死　失直［ʃiʔdʒiʔ］←→［ʃidʒi（死ぬ）］

361　傷風　哈那失几［ɦaʔnaʃiʔki］←→［ɦanaʃiki（風邪）］

沖縄語辞典に「風邪　hanasici」とある。傷風、風邪を引くこと。

362　興　屋起堅［uʔkʼikien］←→［ʔukigeN（ご機嫌）］

363　走　迫姑一甚［pʼaʔkuiʔʒin］←→［paiakuiki（早く行き）］

蕭崇業「使琉球録」に「走　迫姑一其」とある。ここの「甚」は「其　gi」の誤字。「ヤ」の対音字が脱けて、「ハ」はpaと発音する。

364　行　亞立其［ialiʔgi］←→［?］

蕭崇業「使琉球録」の第224條と同じ。

365　好　優答煞［ioutaʔsaʔ］←→［iutasa（良い）］

沖縄語辞典に「いい　jutasjaN」とある。

366　不好　兀煞［uaʔsaʔ］←→［uaʔsa（悪い）］

沖縄語辞典に「悪い　waQsaN」とある。

367　買　科的［kʼotiʔ］←→［koːti（買う）］

沖縄語辞典に「kooti　買う」とある。蕭崇業「使琉球録」の第232條と同じ。

368　賣　屋的［uʔtiʔ］←→［ʔuti（売る）］

蕭崇業「使琉球録」の第233條と同じ。沖縄語辞典に「ʔuti　売る」とある。

369　打更　柯北音［kupoʔin］←→［?］

打更、時を（打って）知らせること。

370　言語　麼奴喀答里［munuk'a?ta?li］←→［munukatari（物語り）］

371　上緊走　排姑亦急［baikuiki?］←→［paikuiki（早く行き）］

陳侃「使琉球録」の第275條と同じ。上緊、急いで。以上の363條の内容に一致する。沖縄語辞典に「早く　hweeku（hwee←pai）」とある。

372　上御路　悪牙密即約里［ŋo?ɦiami?tsi?io?li］←→［?oiamitʃiiori（おや道寄り）］

陳侃「使琉球録」の第276條と同じ。沖縄語辞典に「おや　?uja　敬語」（?u←?o）とある。

373　夢　一梅［i?mui］←→［?imi（夢）］

沖縄語辞典に「夢　?imi」とある。

374　瘦　捱的［iaiti?］←→［iadi（病む）］

沖縄語辞典に「jadi　病む」とある。痩せることを病むことに間違えた。

375　肥　滑的［ɦua?ti?］←→［kuaiti（肥える）］

沖縄語辞典に「kweeti　体が太る」（kwee←kwai）とある。

376　再叩頭　麻達喀藍子其［mada?k'a?lantsɻgi］←→［matakara(ɴ)dzɯtʃi（又体突く）］

沖縄語辞典に「karata　体、karaともいう。」「çici　突く」とある。「ツ」は濁音化して、その前に撥音があると考えられる。「琉球館譯語」に「叩頭　嚂藍子」、「再叩頭　馬達嚂藍子乞」、「頭　嚂藍子」、蕭崇業「使琉球録」に「底頭　喀蘭自之」、「叩頭　嚂藍自之」とあり、「叩頭」「底頭」の「嚂藍子、喀蘭自、嚂藍自」などは「頭」（karadzɯ）と考えても良いがそれらの言葉の後ろの「乞」、「之」は「叩（突く）」や「低（下がる）」の発音にならないので以上のように解読した。中国の「叩頭」という礼は最敬礼で、跪いて体を伏せて頭を地に打ちつけて行うものだから「体突く」と言えると思う。

377　入朝　大立葉密達［dali?ɦie?mi?ta?］←→［taːriːiiemi ta（大人家見た）］

「琉球館譯語」の第340條と同じ。沖縄語辞典に「taarii　父、あるいは中国語「大人」の転訛か」、「いえ（家）jaa」（jaa←ie）とある。「琉球館譯語」に「見朝　大立葉亦及（大人家行き）」もある。册封使の居所は「大立葉」（大人家）を指したと考えられる。

378　鞠躬　曲尸麻平的［k'iu?ʃimabiŋti?］←→［kuʃimagati（腰曲がる）］

沖縄語辞典に「腰　kusi」、「magati　曲がる」とある。「平」は誤字だと思う。

379　底頭　喀蘭自之［k'a?landzɻtʃi］←→［karaɴdzɯtʃi（体附く）］

蕭崇業「使琉球録」の第239條「底頭」と同じ。解読は第376條を参照できる。「底」は「低」の誤字。

380　立住　答止歪立［ta?tʃiɦuali?］←→［tatʃiuori（立ち居り）］

蕭崇業「使琉球録」の第240條と同じ。「立つ」の敬語。第三音節の主母音はa、oのズレがある。

381　叩頭　嗑籃自之［kʻaʔlandzɿtʃi］←→［karaɴdzɯtʃi（体附く）］

蕭崇業「使琉球録」の第241條と同じ。解読は第379條と同じ。

382　謝恩　温卜姑里［uənpuʔkuli］←→［ʔuɴpukuri（恩歓(オンフク)り）］

おもろさうしに「歓り　ふくり」とある。「フ」はpuと発音する。「恩歓り、恩に嬉しい」。

383　朝貢　密加妳吸之［miʔkanihiʔtʃi］←→［?］

384　平身　度漫思吾［dumansɿŋu］←→［duːmaʔsɯgu（身まっすぐ）］

沖縄語辞典に「身　duu」とある。「漫」の「n」の部分が琉球音に対応していない。蕭崇業「使琉球録」第243條と同じ。平身、跪拝していたものが立ちあがること。

385　慶賀　密由鳥牙［miʔɦiouufiia］←→［?］

蕭崇業「使琉球録」第244條と同じ。

386　表章　彪烏［piɔu］←→［pioːu（表）］

「ヒ」はpiと発音する。陳侃「使琉球録」第248條と同じ。表、奏上文。

387　賞賜　吾加一毎奴［ŋukaiʔmuinu］←→［gukaimunu（御(ゴ)買(カ)い物(モノ)）］

蕭崇業「使琉球録」に「吾一加毎奴」とする。

388　起来　揭之［kieʔtʃi］←→［?］

389　進貢　喀得那［kʻaʔtəʔna］←→［?］

390　進表　漂那阿傑的［pʻiɔnaagieʔtiʔ］←→［pioːnoʔageti（表(ヒヤウ)の上(ア)げて）］

「那」は中国語でna，no二音あり、ここは「no」と読むべき。「の」は琉球語で「が」の意味で主格助詞。

391　報名　包名［pɔmiŋ］←→［ばうみん（報名）］

報名、到着を報告すること。中国語の発音にしている。「琉球館譯語」第360條と同じ。

392　辭朝　畏之謾歸［uitʃimankui］←→［uitumaɴgui（お暇乞(イトマ(ン)ゴ)い）］

蕭崇業「使琉球録」第251條と同じ。「ゴ」の前に撥音がある。「之」は「土　tʻu」の誤字だと考えられる。

393　回去　閟都里一其［piʔtuliiʔgi］←→［mu(N)duriiki（戻(モド)り行(イ)き）］

蕭崇業「使琉球録」に「閟」は「悶」（mun）とし、「悶」は正字。回去、帰ること。

394　早起　速都密的［suʔtumiʔtiʔ］←→［sutumiti（朝）］

沖縄語辞典に「朝　sutumiti」とある。蕭崇業「使琉球録」第253條と同じ。

395　下程　司眉曰尸［sɿmuifiyoʔʃi］←→［?］

蕭崇業「使琉球録」第254條と同じ。

396　筵宴　札半失［tʃaʔpanʃiʔ］←→［tʃiapandʒi（茶飯(チヤハンジ)時）］

「ハ」はpaと発音する。「琉球館譯語」第365條と同じ。

397　勅書　倭眉脚都司墨［umuikioʔtusɿməʔ］←→［ʔumigotusɯmi（お見事(ミコトスミ)墨）］

蕭崇業「使琉球録」の第256條と同じ。勅書、皇帝の勅文。

398 暁得 識達哇 [ʃiʔdaʔua] ←→ [ʃiʔtaua (知ったわ)]

蕭崇業「使琉球録」の第266條と同じ。暁得、知る。ここは完了態。

399 不暁得 失籃 [ʃiʔlan] ←→ [ʃiraɴ (知らん)]

蕭崇業「使琉球録」の第268條と同じ。

400 聖旨 由奴奴失[fiiounuuuʃiʔ] ←→ [iunuuuʃi (文)]

沖縄語辞典に「'junuuusi 文。もと一国の元首の意だが、後に一城の主すなわち按司にいうようになった。」とある。聖旨、天子のご命令。「琉球館譯語」の第377條と同じ。

401 御前謝恩 悪牙密温卜姑里 [ŋoʔfiamiʔuənpuʔkuli] ←→ [ʔoiamiunpukuri (おや御恩歓り)]

おや、敬語。御、表敬接頭辞。蕭崇業「使琉球録」の第273條と同じ。

402 且慢走 慢的 [mantiʔ] ←→ [maʔti (待って)]

蕭崇業「使琉球録」第269條と同じ。nと?が合わない。

403 拿来 一得姑 [iʔtəʔku] ←→ [iʔteku] (行って来る)]

拿来、(行って) 何かを持ってくるという意味。

404 放下 由六尸 [fiioulu?ʃi] ←→ [iuruʃi (緩し)]

蕭崇業「使琉球録」第260條と同じ。

405 給賞 烏鵲没谷古里 [utsʻiaʔməʔkuʔkuli] ←→ [ʔuiamikukuri:] (おや御心得)]

蕭崇業「使琉球録」に「鳥鴉没谷古里」とある。「鵲」は「鴉 ia」の誤字。沖縄語辞典に「kukurii 心得、理解」とある。

406 方物 木那哇 [muʔnuua] ←→ [munuua] (物は)]

「琉球館譯語」の第374條と同じ。

407 多少 亦加煞 [iʔkasaʔ] ←→ [ikiaʔsa] (いくら)]

沖縄語辞典に「いくら caQsa」とある。「琉球館譯語」の第375條と同じ。

408 請来 子失之 [tsɿʃiʔtʃi] ←→ [tsɯkaiʃitʃi] (遣いしち)]

沖縄語辞典に「する sjun」とある。「琉球館譯語」に「請来 子蓋失」、蕭崇業「使琉球録」に「請来 子蓋失之」とある。二つに「蓋 kai」が脱けている。

十 身體

409 髪 哈那子 [haʔnatsɿ] ←→ [?]

又喀拉齊 [kʻaʔlaʔdzi] ←→ [karadʒi (髪)]

又音。沖縄語辞典に「髪 karazi」とある。

410 頭 他喇子 [tʻalaʔtsɿ] ←→ [taratʃi ((垂らす)]

沖縄語辞典に「taraci 垂らす。ʔusiru ～、女が礼装する時、髪をうしろへ垂らすよう

結う。」とある。「頭」の誤記。

411 眉 賣由 [mafiiou] ←→ [maiu (眉)]

中山伝信録の「賣」は場合によって「mai」と「ma」と読み、maiからmaへの転換を表す。

412 眼 美 [mi] ←→ [mi: (目)]

413 耳 你米 [nimi] ←→ [mimi (耳)]

第一音節の「ミ」は「ni」と読む。

414 鼻 豁納 [hua?na] ←→ [ɸana (鼻)]

415 舌 失着 [ʃi?dʒia?] ←→ [ʃitʃia (舌)]

沖縄語辞典に「舌 sica」とある。

416 口 濶生 [kuo?ʃiŋ] ←→ [kutʃi (口)]

「生」は「止 tʃi」の誤字だと考えられる。

417 歯 夸 [kua] ←→ [ɸa (歯)]

子音のズレがある。

418 鬚 非几 [fuiki] ←→ [ɸigi (髭)]

沖縄語辞典に「髭 hwizi」(zi←gi) とある。

419 手 蹄 [di] ←→ [ti: (手)]

420 脚 爍 [ʃia?] ←→ [ɸiʃia (足)]

沖縄語辞典に「足 hwisia」とある。「hwi」の対音字が脱けている。

421 身 掐韃 [ka?ta?] ←→ [karata (体)]

「ra」の対音字が脱けている。

422 心 氣麼 [kimu] ←→ [kimu (心)]

沖縄語辞典に「心 cimu」(ci←ki) とある。

423 頭頸 科必 [k'upi?:] ←→ [kubi: (首)]

424 胸 呶尼 [nni] ←→ [Nni (胸)]

沖縄語辞典に「胸 'Nni」とある。

425 奶 齊 [dzi] ←→ [tʃi: (乳)]

子音のズレがある。

426 牙 諾其 [no?gi] ←→ [?]

427 額 失脚衣 [ʃi?dʒia?i] ←→ [ɸitʃiai (額)]

沖縄語辞典に「額 hwicee」(cee←cai=tʃiai←tai) とある。第一音節の子音はズレがある。

428 臍 哭素 [k'u?su] ←→ [ɸusu (臍)]

沖縄語辞典に「臍 husu」とある。第一音節の子音はズレがある。

429　指頭　威彼［uipi］←→［ʔi:bi（指）］

「頭」、接尾辞。沖縄語辞典に「指　ʔi:bi」とある。

430　臂　非之［fuitʃi］←→［ɸidʒige:（肘）］

沖縄語辞典に「肘　hwizigee」とある。最後の音節の対音字が脱けている。

431　腿　膜膜［moʔmoʔ］←→［momo（股）］

沖縄語辞典に「股　mumu」（mu←mo）とある。

十一　衣服

432　衣裳　衾［kʻin］←→［kiɴ（着物）］

沖縄語辞典に「着物　cin」（ci←ki）とある。

433　帽　搭煞［kaʔsaʔ］←→［kasa（笠）］

434　衣服　密子満吉［miʔtsɿmankiʔ］←→［？］

又豈奴［kʻinu（衣）］←→［kinu（衣）］

又音。

435　褲子　哈加馬［haʔkama］←→［hakama（袴）］

436　帯　鳥必［upiʔ］←→［ʔu:bi（帯）］

437　手巾　梯煞几［tʻisaʔki］←→［ti:ʃia:gi（手拭）］

沖縄語辞典に「手拭　tiisaazi」とある。

又皮沙之［biʃatʃi］←→［？］

438　被　鳥獨［uduʔ］←→［ʔu:du（蒲団）］

沖縄語辞典に「蒲団　ʔuudu」とある。

439　帳子　喀着［kʻaʔdʒiaʔ］←→［katʃiau（蚊帳）］

440　毯單　木心［muʔsin］←→［muʃin（毛布）］

沖縄語辞典に「毛布　musin」とある。

441　枕　媽括［makuaʔ］←→［maʔkua（枕）］

沖縄語辞典に「枕　maQkwa」（a←ra）とある。

442　褥子　福冬［fuʔtuŋ］←→［ɸudun（布団）］

褥子、敷き布団。

443　襪　搭弼［taʔbiʔ］←→［ta:bi（足袋）］

444　衫子　哈加［haʔka］←→［？］

445　笠　由沙［ɦiouʃa］←→［？］

446　纓　毛疸［mɔtsy］←→［？］

447　靴　呵呀［kuɦia］←→［ɸuja（靴）］

沖縄語辞典に「靴　huja」とある。Kとφのズレがある。

448　鞋　煞巴［saʔpa］←→［saba（草履）］

沖縄語辞典に「草履　saba」とある。

449　汗衫　阿米琴［amigin］←→［？］

雨（ʔami）の着物（kin）と考えられる。

450　冬短衣　木綿景［muʔmienkiŋ］←→［muminkiɴ（木綿の着物）］

451　夏短衣　百索景［paʔsoʔkiŋ］←→［ʔasakiɴ（麻の着物）］

第一音節の子音と第二音節の母音がそれぞれ合わない。

452　紬　亦周［iʔtʃiou］←→［ʔitʃiu（絹）］

沖縄語辞典に「絹　ʔiicu」とある。

453　緞　動子［duŋtsɿ］←→［duɴsi（緞子）］

沖縄語辞典に「緞子　duɴsi」とある。「琉球入學見聞録」も「緞　動子」とあり、琉球音も「tsɯ」の発音が有ったかもしれない。

454　紗　撒［saʔ］←→［sa（紗）］

「琉球館譯語」の第392條と同じ。

455　羅　羅［lu］←→［ruː（羅）］

日本語で「羅」は「ラ」と発音し、ここはおそらく中国語のままで読んでいる。「琉球館譯語」の第393條と同じ。

456　絹　活見［ɦuoʔkien］←→［φoʔken（北絹）］

「琉球館譯語」の第394條と同じ。

457　布　奴奴［nunu］←→［nunu（布）］

沖縄語辞典に「布　nunu」とある。

458　綿衣　奴奴木綿［nunumuʔmien］←→［nunumumiɴ（布木綿）］

綿衣、綿入れ。

459　紗帽　紗帽［samɔ］←→［samoːu（紗帽）］

「琉球館譯語」の第403條と同じ。中国語式の発音。紗帽、旧時中国文官の帽子。

460　網巾　網巾［vaŋkin］←→［uaŋkiɴ（網巾）］

「琉球館譯語」の第460條と同じ。中国語式の発音。網巾、束髪用の網。

461　圓領　員領［ɦyanliŋ］←→［iuanriɴ（圓領）］

中国語式の発音。圓領、旧時官員の礼服。丸いえりぐりを持つのはその名称の由来。

462　裙　喀甲眉［kʻaʔkaʔmi］←→［kakami（下裳）］

沖縄語辞典に「kakaɴ　下裳」（ɴ←mi）とある。

十二　飲食

463 飯 呅班 [ŋupan] ←→ [ʔuban (御飯(オハン))]

沖縄語辞典に「御飯 ʔubuN」、琉球語彙に「boiled rice Umbang」とある。

464 酒 煞几 [saʔki] ←→ [saki (酒(サケ))]

465 煙 塔八孤 [t'aʔpaʔku] ←→ [tabaku (煙(タバコ))]

466 油 阿唔打 [anta] ←→ [ʔaNda (油脂)]

沖縄語辞典に「油脂 ʔaNda」とある。

467 醤 彌沙 [miʃa] ←→ [misau (味噌(ミソ))]

沖縄語辞典に「味噌 'Nsu」('N←mi) とある。

468 醤油 沙由 [ʃafiiou] ←→ [ʃio:iu: (醤油(ショウユ))]

第一音節の対音字音と琉球語のズレが見える。

469 米 可木 [kumuʔ] ←→ [kumi (米(コメ))]

「木」は「米」(mi) の誤字だと考えられる。

470 塩 麻蝦 [mahio] ←→ [ma:ʃio (塩)]

琉球語彙に「salt mashoo」、沖縄語辞典に「塩 maasju」とある。現代蘇州音の「蝦」は「ho」と読む。

471 豆腐 托福 [t'oʔfuʔ] ←→ [to:ɸu (豆腐(トウフ))]

472 茶 札 [tʃaʔ] ←→ [tʃia (茶(チャ))]

「琉球館譯語」の第427條と同じ。

473 肉 失失 [ʃiʔʃiʔ] ←→ [ʃiʃi (肉(シシ))]

沖縄語辞典に「肉 sisi」とある。

474 菜 綏 [suei] ←→ [se: (菜(サイ))]

沖縄語辞典に「菜 ʂee」とある。

475 索麺 錯閔 [ts'omin] ←→ [so:miN (素麺(ソメン))]

沖縄語辞典に「素麺 soomiN」とある。

476 葉瓜 喂 [ui] ←→ [ʔui (瓜(ウリ))]

沖縄語辞典に「瓜 ʔui」(i←ri) とある。

477 蒜 非徒 [fuidu] ←→ [ɸiru (大蒜)]

沖縄語辞典に「大蒜 hwiru」とある。d、rの子音ズレがある。

478 西瓜 烏貽 [uɦi] ←→ [ʔui (瓜(ウリ))]

476條の「菜瓜」と同じ読み方。

479 冬瓜 失布衣 [ʃiʔpui] ←→ [ʃibui (冬瓜)]

沖縄語辞典に「冬瓜 sibui」とある。

480 生薑 那没燒介 [namaʔʃiɔka] ←→ [namaʃio:ga: (生薑(ナマショウガ))]

沖縄語辞典に「生　nama」、「生薑　sjoogaa」(joo←iau) とある。

481　黒豆　枯羅馬馬 [kʻurumama] ←→ [kuruma:mi (黒豆(クロマメ))]

沖縄語辞典に「黒豆　kurumaami」とある。最後の音節の母音が合わない。

482　蕉寔　巴煞那 [paʃiaʔna] ←→ [baʃiana (バナラ)]

沖縄語辞典に「香蕉　basjanai」とある。ここの「煞」は「saʔ」でなく、「ʃia」と発音するようだ。saʔは南方音、ʃiaは北方音。最後の「i」の對音字が脱けている。『琉球入学見聞録』に「蕉實　巴煞那衣」とある。

483　番薯　番子母 [fantsɿmu] ←→ [ɸaɴsɯmu (薩摩藷)]

沖縄語辞典に「薩摩藷　hansu, (ha←ɸa)、「芋　ʼ nmu (ʔN←i) とある。「i」の対音字がない。

484　豆牙菜　馬米那 [mamina] ←→ [ma:mina (もやし)]

沖縄語辞典に「もやし　maamina」とある。

485　餅　木之 [muʔtʃi] ←→ [mutʃ: (餅(モチ))]

486　芋羹　坤軋姑 [kuənaiaʔku] ←→ [kuɴiaku (蒟蒻(コンニャク))]

沖縄語辞典に「蒟蒻　kuɴjaku」とある。

487　菓　刻納里 [kʻɔʔnaʔli] ←→ [kinari (木成(キナ)り)]

沖縄語辞典に「果物　kiinunai (木の成り)」(i←ri) とある。蕭崇業『使琉球録』の第305條と同じ。

488　粉　由諾姑 [ɦiouʔnoʔku] ←→ [?]

蕭崇業『使琉球録』の第306條と同じ。

489　魚　一由 [iʔɦiou] ←→ [ʔiiu (魚(イオ))]

沖縄語辞典に「魚　ʔiju」とある。

490　蝦　一必 [iʔpiʔ] ←→ [ʔibi (蝦(エビ))]

491　蛤蜊　克培 [kʻɔʔbei] ←→ [?]

492　螺甸　阿古噶 [akukaʔ] ←→ [?]

493　蟹　夾煞眉 [kaʔsaʔmi] ←→ [ga dzami (蟹)]

沖縄語辞典に「蟹　gazami」(za=dza) とある。

494　硨磲　阿札噶 [atʃaʔkaʔ] ←→ [ʔadzakai (しゃこ貝)]

沖縄語辞典に「しゃこ貝　ʔaẓakee」(kee←kai) とある。

495　海獅　子菩拉 [tsɿbu laʔ] ←→ [?]

十三　珍寶

496　金　枯軋膩 [kʻugaʔni] ←→ [kugani (黄金(コガネ))]

497　銀　喀膩 [kʻaʔni] ←→ [kani (金(カネ))]

498　銭　一層［iʔdzɔŋ］←→［ʔiʔdzeɴ（一銭）］

499　銅　阿里喀膩［alikʻaʔni］←→［ʔakagani（銅）］

「里」は誤字だと考えられる。

500　鐵　窟碌喀膩［kʻuʔluʔkʻaʔni］←→［kurukani（黒金）］

501　錫　右禄喀膩［ɦiouluʔkaʔni］←→［ʃirukani（白金）］

「右」は「石　ʒiʔ」の誤字。

502　鈔　支膩［tʃini］←→［dʒini（銭）］

沖縄語辞典に「お金　zin」（zi＝dzi　N←ni）とある。

503　玉　依石［iʒiʔ］←→［ʔiʃi（石）］

蕭崇業『使琉球録』の第336條と同じ。

504　珠　撻馬［daʔma］←→［tama（玉）］

505　石　一石［iʔʒiʔ］←→［ʔiʃi（石）］

506　瑪瑙　吾馬那達馬［ŋumanodaʔma］←→［umanotama（馬の玉）］

瑪瑙、めのう。「瑪」の「馬」を取って組合せた言葉。陳侃『使琉球録』の第339條と同じ。

507　珊瑚　牙馬那達馬［hiamanodaʔma］←→［iamanotama（山の玉）］

陳侃『使琉球録』の第340條と同じ。根拠のない作り言葉。

508　水晶　皿子達馬［miŋtsɿdaʔma］←→［mi(ɴ)dzɯtama（水玉）］

蕭崇業『使琉球録』の第342條と同じ。

509　玉石　撻馬一石［daʔmaiʔʒiʔ］←→［tamaiʃi（玉石）］

蕭崇業『使琉球録』の第343條と同じ。

510　琥珀　它喇［tʻolaʔ］←→［tora（虎）］

『琉球館譯語』の第478條と同じ。

511　犀角　吾失祖奴［ŋuʃiʔtsunu］←→［uʃitsɯnu（牛角）］

陳侃『使琉球録』の第345條と同じ。

512　硫黄　汕哇［ʃanua］←→［iuːuaː（硫黄）］

「汕」は「油　ɦiou」の誤字。沖縄語辞典に「硫黄　juuwaa」とある。

十四　数目

513　一　抵子［titsɿ］←→［tiːtsɯ（一つ）］

沖縄語辞典に「一　tiiçi」とある。

514　二　打子［tatsɿ］←→［taːtsɯ（二つ）］

沖縄語辞典に「二　taaçi」とある。

515　三　乜子［mietsɿ］←→［mi:tsɯ（三つ）］

沖縄語辞典に「三　miiçi」とある。

516　四　夭子［iautsɿ］←→［io:tsɯ（四つ）］

沖縄語辞典に「四　juuçi」(juu←io:) とある。

517　五　一子子［i?tsɿtsɿ］←→［?itsɯtsɯ（五つ）］

沖縄語辞典に「五　?içiçi」とある。

518　六　姆子［mutsɿ］←→［mu:tsɯ（六つ）］

沖縄語辞典に「六　muuçi」とある。

519　七　納納子［na?na?tsɿ］←→［nanatsɯ（七つ）］

沖縄語辞典に「七　nanaçi」とある。

520　八　呀子［ɦiatsɿ］←→［ia:tsɯ（八つ）］

沖縄語辞典に「八　jaaçi」とある。

521　九　科過碌子［kʻukulu?tsɿ］←→［kukunutsɯ（九つ）］

沖縄語辞典に「九　kukunuçi」とある。第三音節の子音はｌ、ｎのズレがある。

522　十　拖子［tʻotsɿ］←→［to:（十）］

沖縄語辞典に「十　tuu」(uu←oo) とある。「子」は衍字。

523　十一　拖抵子［tʻotitsɿ］←→［to:ti:tsɯ（十一つ）］

524　二十　膩徂［nitsu］←→［nidʒiu:（二十）］

第二音節の発音が合わない。当時の「十」は「dzu」と読む可能性もある。

525　三十　摻徂［tsʻantsu］←→［saɴdʒiu:（三十）］

526　四十　細徂［sitsu］←→［ʃidʒiu:（四十）］

527　五十　古徂［kutsu］←→［gudʒiu:（五十）］

528　六十六古徂［lu?kutsu］←→［lukudʒiu:（六十）］

529　七十錫汁徂［si?dʒi?tsu］←→［ʃitʃidʒiu:（七十）］

530　八十　河汁徂［hodʒi?tsu］←→［hatʃidʒiu:（八十）］

531　九十　苦徂［kʻutsu］←→［kudʒiu:（九十）］

532　一百　夏古［hiaku］←→［hia:ku（百）］

533　千　先［sien］←→［seɴ（千）］

534　一千　一貫［i?kuan］←→［?i?kuaɴ（一貫）］

沖縄語辞典に「一貫（銭）　?iQkwan」とある。

535　萬　漫［man］←→［maɴ（万）］

536　両　唧茶切［lia］←→［liau（両）］

［liao］と［tʃia］の音切。反切上字の声母と反切下字の韻母を取って音になる。

537　銭　層［dzəŋ］←→［dzeɴ（銭）］

515　三　乜子［mietsɿ］←→［mi:tsɯ（三つ）］

沖縄語辞典に「三　miiçi」とある。

516　四　夭子［iautsɿ］←→［io:tsɯ（四つ）］

沖縄語辞典に「四　juuçi」(juu←io:) とある。

517　五　一子子［i?tsɿtsɿ］←→［?itsɯtsɯ（五つ）］

沖縄語辞典に「五　?içiçi」とある。

518　六　姆子［mutsɿ］←→［mu:tsɯ（六つ）］

沖縄語辞典に「六　muuçi」とある。

519　七　納納子［na?na?tsɿ］←→［nanatsɯ（七つ）］

沖縄語辞典に「七　nanaçi」とある。

520　八　呀子［ɦiatsɿ］←→［ia:tsɯ（八つ）］

沖縄語辞典に「八　jaaçi」とある。

521　九　科過硃子［kʻukulu?tsɿ］←→［kukunutsɯ（九つ）］

沖縄語辞典に「九　kukunuçi」とある。第三音節の子音はｌ、ｎのズレがある。

522　十　拖子［tʻotsɿ］←→［to:（十）］

沖縄語辞典に「十　tuu」(uu←oo) とある。「子」は衍字。

523　十一　拖抵子［tʻotitsɿ］←→［to:ti:tsɯ（十一つ）］

524　二十　膩徂［nitsu］←→［nidʒiu:（二十）］

第二音節の発音が合わない。当時の「十」は「dzu」と読む可能性もある。

525　三十　摻徂［tsʻantsu］←→［saNdʒiu:（三十）］

526　四十　細徂［sitsu］←→［ʃidʒiu:（四十）］

527　五十　占徂［kutsu］←→［gudʒiu:（五十）］

528　六十六古徂［lu?kutsu］←→［lukudʒiu:（六十）］

529　七十錫汁徂［si?dʒi?tsu］←→［ʃitʃidʒiu:（七十）］

530　八十　河汁徂［hodʒi?tsu］←→［hatʃidʒiu:（八十）］

531　九十　苦徂［kʻutsu］←→［kudʒiu:（九十）］

532　一百　夏古「hiaku］←→［hia:ku（百）」

533　千　先［sien］←→［seN（千）］

534　一千　一貫［i?kuan］←→［?i?kuaN（一貫）］

沖縄語辞典に「一貫（銭）　?iQkwan」とある。

535　萬　漫［man］←→［maN（万）］

536　両　聊茶切［lia］←→［liau（両）］

［liao］と［tʃia］の音切。反切上字の声母と反切下字の韻母を取って音になる。

537　銭　層［dzəŋ］←→［dzeN（銭）］

第498条に参照する。

538　分　風［fuŋ］←→［ɸuɴ（分）］

539　一半　納加那［naʔkana］←→［nakara（半ば）］

沖縄語辞典に「半ば　nakara」とある。第三音節の字音はn，rのズレがある。

540　一様　一奴摩奴［iʔnumunu］←→［inumunu（同じ物）］

沖縄語辞典に「同じ　'inu」「物　munu」とある。

541　輕　喀羅煞［kʻaʔlusaʔ］←→［karusa（軽さ）］

542　重　呅卜煞［npuʔsaʔ］←→［ʔɴbusa（重い）］

沖縄語辞典に「重い　ʔɴbusan」とある。

543　多　屋火煞［uʔhusaʔ］←→［ʔuhusa（多い）］

沖縄語辞典に「多い　ʔuhusaɴ」とある。

544　少　一革拉煞［iʔkəʔlaʔsaʔ］←→［ʔikirasa（少ない）］

沖縄語辞典に「少ない　ʔikirasaɴ」とある。

545　長　那夾煞［nakaʔsaʔ］←→［nagasa（長い）］

546　短　陰夾煞［inkaʔsaʔ］←→［ʔiɴkasa（短い）］

沖縄語辞典に「短い　ʔiɴkasan」（ca←ka）とある。

547　濶　非羅煞［fuilusaʔ］←→［ɸirusa（広い）］

548　狹　一伯煞［iʔpaʔsaʔ］←→［ʔibasa（狭い）］

沖縄語辞典に「狭い　ʔibasaɴ」とある。

549　中　屋之［uʔtʃi］←→［ʔutʃi（内）］

550　上　威［uəi］←→［ʔui:（上）］

沖縄語辞典に「上　ʔwii」とある。

551　下　昔着［siʔdʒiaʔ］←→［ʃitʃia（下）］

沖縄語辞典に「下　sica」とある。

552　滿　抵之密之［titʃimiʔtʃi］←→［ʔmiʔtʃi（ʔ満ちる）］

沖縄語辞典に「満ちる　miQci」とある。「抵子」は「tiitsɯ」、「一つ」の発音。

553　浅　阿煞之［asaʔtʃi］←→［ʔasasa（浅い）］

沖縄語辞典に「浅い　ʔasasaN」とある。第三音節の「sa」と「之」は合わない。

554　里　利［li］←→［ri（里）］

555　一銭　一止買毎［itʃimaimi］←→［ʔitʃimaimi（一枚目）］

ここから十回「買毎」の対音字が用いられ、「匁」（muɴmi）の誤訳ではなく、銅銭を一枚一枚数えながら「何枚目」の言い方をしている。

556　二銭　尼買毎［nimaimi］←→［nimaimi（二枚目）］

557　三銭　山買毎［sanmaimi］←→［saNmaimi（三枚目）］

「山」は「s」の声母にしている。

558　四銭　中買毎［ʃinmaimi］←→［ʃiɴmaimi（四枚目（シンマイメ））］

「枚」の前に撥音がある。

559　五銭　吾買毎［ŋumaimi］←→［gumaimi（五枚目（ゴマイメ））］

560　六銭　六姑買毎［luʔkumaimi］←→［rukumaimi（六枚目（ロクマイメ））］

561　七銭　式之買毎［ʃiʔtʃimaimi］←→［ʃitʃimaimi（七枚目（シチマイメ））］

562　八銭　法之買毎［faʔtʃimaimi］←→［ɸatʃimaimi（八枚目（ハチマイメ））］

563　九銭　枯買毎［kʻumaimi］←→［kumaimi（九枚目（クマイメ））］

564　一両　執買毎［tʃiʔmaimi］←→［dʒiʔmaimi（十枚目（ジツマイメ））］

ここから見ると、当時に、十銭が一両になる金銭の計算方法があった。

565　十両　撒姑毎［saʔkumui］←→［tʃiukumai（百文）］

沖縄語辞典に「百文　cukamui」とある。第一音節の対音が合わない。中国語で一銭は一文ともいう。一両は十銭とすれば十両は百銭、百文になる。

566　一百両　撒牙姑［saʔɦiaku］←→［ɸiaku（百（ヒャク））］

第一音節の対音が合わない。

567　一萬個　麻孰吐失［maʒiuʔtʻuʃiʔ］←→［maɴiutuʃi（萬世歳（マンヨトシ））］

第569條に似ている。見出し語の意味にあまり合わない。

568　千歳　森那［senno］←→［senno（千（セン）の）］

『琉球館譯語』の551條「千歳」と549條「一千個」と同じ。

569　萬萬歳　麻由吐失［maɦioutʻuʃiʔ］←→［ma ɴiutuʃi（萬世歳（マンヨトシ））］

「ン」の対音部分がない。

十五　通用

570　甜的　阿媽煞［amasaʔ］←→［ʔamasa（甘（アマ）さ）］

ここと以下いくつかの「的」は「物」の意味。甜的、甘い物。

571　酸的　關爽煞［kuaɴʃuaŋsaʔ］←→［kuɴsaɴsa（臭（クンサ）さ）］

沖縄語辞典に「すっぱい ʂiisaɴ」とある。対音字の発音から判断すれば「臭い」に近い。

前の二音節は全部撥音がついているようにあることはめずらしい。

572　辣的　喀喇煞［kʻaʔlaʔsaʔ］←→［karasa（辛（カラ）さ）］

573　鹹的　什布喀煞［ʃipukʻaʔsaʔ］←→［ʃibukarasa（塩辛さ）］

沖縄語辞典に「塩辛い　sibukarasaɴ」とある。「ra」の対音字が脱けている。

574　淡的　阿法煞［afaʔsaʔ］←→［ʔaɸasa（淡（アワ）さ）］

沖縄語辞典に「薄い　ʔahwasaɴ」とある。

575　黄　綺羅［kʻilu］←→［kiːru（黄色（キイロ））］

沖縄語辞典に「黄色　ciiru」(ci←ki) とある。

576　紅　阿夾煞 [aka?sa?] ←→ [?akasa (赤さ)]

577　青　唖煞 [osa?] ←→ [?o:sa (青さ)]

沖縄語辞典に「青い　?oosaN」とある。

578　白　稀羅煞 [hilusa?] ←→ [ʃirusa (白さ)]

現代蘇州音は「稀」など見系声母は口蓋化した。その現象は十九世紀に起ったといわれる。ここの「稀」はʃiと対応、現代の口蓋化した音に近い。

579　念書　西米那那容 [siminanaɦiuŋ] ←→ [suminaraiuN (墨習う)]

沖縄語辞典に「ṣimi①墨②学問」と「習う　narajuN」とある。第四対音字のnと琉球音のrが合わない。念書、本を読む、学問を習う。

580　看　妙母 [miɔmu] ←→ [?]

581　聴得　乞介楞 [ki?kalaŋ] ←→ [kikaraN (聞からん)]

582　不聴得　乞介藍 [ki?kalan] ←→ [kikaraN (聞からん)]

以上肯定式と否定式の言葉はともに否定式の読みになっている。５８１條は誤記。

583　有　阿美 [ami] ←→ [?aN (有る)]

沖縄語辞典に「有る、在る　?aN」とある。「N」は「mi」と対応している。

584　無　你嬾 [nilan] ←→ [ne:ran (無い)]

沖縄語辞典に「無い　neeraN」とある。

585　臭　哭煞煞 [ku?sa?sa?] ←→ [kusasa (臭さ)]

586　求討　答毛里 [ta?mɔli] ←→ [tamao:ri (賜り)]

求討、恩賜を貰う。「毛」は「maua」二音節に対応している。

587　説話　麼奴喀達里 [munuk'ada?li] ←→ [munukatari (物語)]

370條「言語」と同じ。

588　知道　識之「ʃi?tʃi] ←→ [ʃi?tʃi (知って)」

沖縄語辞典に「siQci　知る」とある。

589　不知道　失籃子 [ʃilantsɿ] ←→ [ʃiraNdzi (知らず)]

399條「不曉得　失籃」に似ている。『琉球館譯語』第594條と同じ。

590　不敢　揚密撒 [ɦiaŋmi?sa?] ←→ [iaNmisa (止めさ)]

不敢、そうしないこと。沖縄語辞典に「-sa (接尾)」、よ、さ。述べることを相手に対して軽く強調する場合に用いる。」とある。『琉球館譯語』の第583條と同じ。

591　東西　加尼尼失 [kaniniʃi?] ←→ [agariniʃi (東西)]

『琉球館譯語』の第592條と同じ。「東」と「西」の組合わせ。「東西」、中国語で品物という。

592　閒　謾圖押里 [mandua?li] ←→ [maNduari (暇有り)]

閒、ひまなこと。沖縄語辞典に「暇　madu」とある。「du」の前に撥音がある。

593　説謊　由沽辣舍［ɦioukulaʔʃəʔ］←→［iukuʃimuni:ʃia:（嘘つき）］

沖縄語辞典に「うそつき　jukusimuniisjaa」とある。「辣」とjimuniは対応している。対音字が脱けている。蕭崇業『使琉球録』の第387條と同じ。

594　實話　馬訟沽夷［masuŋkuɦi］←→［masuNguii（真すぐ言い）］

蕭崇業『使琉球録』の第379條と同じ。

595　不見　迷闌［milan］←→［miraN（見らん）］

蕭崇業『使琉球録』の第385條と同じ。

596　快活　括其［kuaʔgi］←→［kuaiki（快気）］

蕭崇業『使琉球録』の第388條と同じ。沖縄語辞典に「kweeci（快気）」（ee←ai、ci←ki）とある。

597　辛苦　南及之［nankiʔtʃi］←→［naNgi（難儀）］

蕭崇業『使琉球録』の第389條と同じ。「之」の対応は不明。

598　笑　瓦喇的［ualaʔtiʔ］←→［uarati（笑う）］

沖縄語辞典に「warati　笑う」とある。蕭崇業『使琉球録』の第374條と同じ。

599　啼　那其［nagi］←→［naki（泣き）］

蕭崇業『使琉球録』の第325條と同じ。

600　叫　院的［ɦiuɔntiʔ］←→［iuNdi（呼ぶ）］

蕭崇業『使琉球録』の第376條と同じ。沖縄語辞典に「judi　叫ぶ」とある。「di」の前に撥音がある。

601　癢　課沙［kʻosa］←→［uigo:sa（痒い）］

沖縄語辞典に「痒い　ʼwiigoosaN」とある。「ui」の対音字がない。蕭崇業『使琉球録』に「痣　課沙」とある。

602　明早起身　阿着速閪拖枚榻支［adʒiaʔsuʔtutumɔitʻaʔtʃi］←→［ʔatʃiasutumitidatʃi（あした朝立ち）］

沖縄語辞典に「あした　ʔaca」（ca＝tʃia）、「朝　sutumiti」」、「立ち　daci」とある。「拖」は衍字で琉球音の「ti」の対音字が脱けている。陳侃『使琉球録』に「明早起身阿着速多蜜的榻知」とあり、対応が正しい。起身、中国語で發つ、出かけると言う。

603　抛球　馬一［maiʔ］←→［ma:i（毬）］

抛球、投げるボール。沖縄語辞典に「毬　maai」（i←ri）とある。

604　捉七子　一深虐占［iʔʃinniuoʔku］←→［ʔiʔsiNgu:］

沖縄語辞典に「ʔiQsiNguu　子供をあやす遊戯の名。子供をひざの上に立たせ、両手をとって前後に揺り動かす。」とある。この遊戯は中国の「捉七子」という遊び方に似ている。「虐」は衍字。

605　下碁　古烏韃［kuuda?］←→［guu?ta（碁打（ゴウ）った）］

606　唱歌　屋韃［u?da?］←→［?uta（歌（ウタ））］

沖縄語辞典に「歌　?uta」とある。

（二）字母

假名　イロハニホヘトチリヌルヲワカヨタレソツネナラムウヰノオクヤマケフコエテアサキユメミシヱヒモセスン

対音字　依魯花義夫揮都痴利奴禄烏哇喀夭達力蘇即你那喇某務依奴烏姑耶馬其夫庫而梯牙沙基夭霄米志意蜚毛世使媽

対音字音

iluhuaŋifuhueitutʃilinulu?uuakʻa?iouda?li?sutsininala?muuinuukufiiamagifukʻuɔtʻiŋasakiiouməimitʃiifuimɔʃisɿma

琉球音

iruɸaniɸuɸitutʃirinuruuuakaiutalisutsɯninaramuuinuukuiamakiɸukueti?asakiiumimiʃiiɸimɔʃisɯɴ

以上は『中山伝信録』における「字母」の仮名対音解読、その特徴は：

1．あ、か、な、は、や、ら行のう段音とお段音が同じように発音している。「ぬ、夫、夭」はそれぞれ「ぬ、の」「ふ、ほ」「ゆ、よ」両方の対音字にしている。そのほか、「そ、と、も」もｕ母音になっている。オ段音は完全にウ段に合流している。

2．エ段音は「而え」以外、全部ｉの母音を持っている対音字が用いられ、エ段音はイ段音に基本的に合流したと言える。その中「へ、メ」の対音字「揮、霄」の韻母には「e」の発音を同時に持つことからみると、その「ei」は実際にｅからｉに変化する途中の音（ɨやⅠ）を表していることが考えられる。

3．「イ、ヱ、ヰ」合流、「オ、ヲ」合流。

4．「ン」は「媽ma」と発音する。

5．あ牙ŋa、さ沙sa、す使sɿ、に義ɳi、む某mu、も毛mɔなど対音字の発音は典型的な蘇州音になっている。

6．「し」は志tʃiとの対応はズレがある。誤記だと思われる。